

北海道自然環境保全指針

目次

- はじめに
- 第1章 自然環境保全指針の目的と性格
 - 1 指針策定の背景と目的
 - 2 指針の性格
 - 3 指針の検討内容
- 第2章 自然環境保全の現状と課題
 - 1 自然環境の現状
 - (1) 本道の自然環境の特質
 - (2) 自然環境保全をめぐる社会経済情勢の変化
 - ア 自然環境に対する国民ニーズの多様化
 - イ 新たな開発インパクトの増大
 - (3) 自然環境の保全に係る地域指定の状況
 - ア 自然公園
 - イ 自然環境保全地域等
 - ウ 鳥獣保護区
 - エ 天然記念物等
 - 2 自然環境保全上の課題
 - (1) すぐれた自然の積極的な保全
 - (2) 身近な自然の保全
 - (3) 野生動物の保護対策の推進
 - (4) 自然環境の保全に関する道民コンセンサスの形成
 - (5) 自然環境の保全と開発との調整
- 第3章 本道の「保全を図るべき自然地域」の概要
 - 1 「保全を図るべき自然地域」の考え方
 - 2 「すぐれた自然地域」の明確化
 - (1) 「すぐれた自然地域」の考え方
 - (2) 「すぐれた自然地域」の抽出方法
 - (3) 保全水準の設定
 - ア 保全水準の意義
 - イ 保全水準の考え方
 - ウ 保全水準による評価
 - (4) 「すぐれた自然地域」の概要
 - [Ⅰ] 道南圏域
 - [Ⅱ] 道央圏域
 - [Ⅲ] 大雪山・日勝圏域
 - [Ⅳ] 道東圏域
 - [Ⅴ] 道北圏域
 - 3 身近な自然地域の明確化
 - (1) 「身近な自然地域」の考え方
 - (2) 「身近な自然地域」の選定方法
 - (3) 「身近な自然地域」の概要
 - ア 立地条件別特性
 - イ 地域の名称による区分
 - ウ 地域の概要
- 第4章 自然環境保全施策の推進
 - 1 「すぐれた自然地域」の保全施策の推進
 - (1) すぐれた自然環境の保全
 - (2) 野生動物の適正な保護管理
 - 2 「身近な自然地域」の保全施策の推進と市町村の役割
 - (1) 身近な自然の保護対策
 - (2) 身近な自然の利用対策
 - 3 自然保護思想の普及啓発の推進
 - (1) 自然保護教育活動の充実
 - (2) ナショナル・トラスト運動の支援
- 参考
 - 1 北海道自然環境保全審議会委員名簿
 - 2 審議会における検討経過
 - 3 諮問文
 - 4 答申文

北海道自然環境保全指針

はじめに

北海道は、6つの国立公園、4つの国定公園、14の道立自然公園に代表されるように、北国らしい豊かですぐれた自然環境に恵まれています。

この自然環境を将来にわたり適切に保全し、後世に伝えるために、道ではこれまで各種法令に基づき、自然環境の保全施策を進めてまいりましたが、なお本道には、将来へ向けて保全を図っていくことが望ましい、かけがえのない自然をもつ地域が数多く残されています。

また、最近の自然とのふれあいを求める住民のニーズや、今後ますます増大することが予想される観光リゾート開発などに対応する上からも、改めて、保全が必要な自然の地域が、どこに、どの位存在し、将来へ向け、どのような保全施策を講じていくべきなのかについて明らかにする必要があると思われまます。

こうした観点から、道では昭和62年7月、北海道自然環境保全審議会に自然環境保全指針の策定について諮問し、平成元年4月に同審議会から答申をいただきました。

この答申をもとに、本道の自然環境の保全に関する基本的な方向などを明らかにしたのが、この指針です。

策定に携わっていただいた同審議会の「自然環境保全指針検討委員会」及び同ワーキング・グループの皆様に対し、心からお礼を申し上げます。

道では、この指針に盛り込まれた理念や基本的な方向性を踏まえ、今後の自然環境保全施策を進めてまいりたいと考えていますので、道民の皆様の御理解と御協力をいただければ幸いです。

平成 元年 7月

第1章 自然環境保全指針の目的と性格

1 指針策定の背景と目的

本道は、四面豊かな海に囲まれ、気候的には温帯から亜寒帯への移行帯に属し、変化に富む山岳や天然林を主体とした広大な森林、広漠とした湿原、清澄な水をたたえる湖沼などが織り成す雄大な北方的景観と豊かな動植物が生息・生育する良好な自然環境に恵まれている。

この恵まれた自然は、道民一人ひとりの生存と諸活動の基盤であり、本道の発展を支える源泉であるとともに、道民の潤いと安らぎある生活環境を確保するために欠くことのできない貴重な財産である。この自然のもたらす恵沢を、現在のみならず将来にわたって享受できるようにすることは、現代に生きる我々の責務であり、そのためには自然のかけがえのなさを正しく認識し、行動する必要がある。

本道は、いまだ開発の歴史が浅く、自然環境はおおむね良好に保全されているが、昭和30年代の半ばから始まったわが国の高度経済成長に伴い各地に発生した自然環境保全上の問題をみると、各種開発事業の実施に当たり、その環境に及ぼす影響について十分な配慮を欠いたまま、経済的合理性のみを求めた結果、自然の損壊を招いた例が少なくない。

また、近年、生活水準の向上や余暇時間の増加を背景に、精神的な安らぎの場やレクリエーションの場等として自然とのふれあいを求める国民のニーズが高まり、かつ、多様化してきているため、良好な自然環境を利用したリゾート産業等の発展が予想されることから、自然環境に対する開発インパクトがますます増大するものと思われる。

このため、今後においては、自然は一度破壊されるとその復元は非常に困難であるという基本的な考え方に立ち、自然環境保全のための施策を計画的に展開することが特に重要となっている。

このようなことから、本指針では、21世紀を展望した長期的視点に立って、本道の良好な自然環境を適切に保全するため、本道における自然の現状を的確に把握し、これを評価して、本道の保全を図るべき自然を明らかにするとともに、それらの自然環境の保護と利用に関する施策を総合的かつ計画的に展開するための目標と方向を示すものである。

2 指針の性格

本指針は、本道の自然環境保全行政の運営指針となるものである。また、この指針は、北海道新長期総合計画の理念の一つである「豊かな自然とよりよい環境」の実現をめざすものであり、国に対しては要望的、市町村に対しては誘導的な性格を有するとともに、道民や事業者等に対しては理解と協力を求めながら、各種の開発事業等の実施に当たって、それぞれの構想の段階から自発的、積極的な自然環境への配慮を期待するものである。

したがって、この指針の内容は、法律や条例等に基づく地域指定や基準とは異なり、法的な効力を有したり規制を伴うものではなく、本道の自然の適切な保護と節度ある利用について、道民、事業者、行政機関等が、それぞれの立場において自ら配慮するための道しるべとしての性格を有するものである。

3 指針の検討内容

本道の自然環境に関して、環境庁が実施している自然環境保全基礎調査及び道が単独で実施したすぐれた自然調査等の各種調査や既存文献等一応の自然環境に関するデータが蓄積されたことにより、これらの資料をもとに本道の自然環境を構成する様々な要素の中から、植物、動物、地形・地質等を対象として、どのような自然環境の質、規模、内容を持った地域が、どこに、どの位あるのかを把握し、解析することにより、原始性、希少性、学術性等において比較的秀でている地域を「すぐれた自然地域」としてとりまとめるとともに、その資質等を評価するための保全水準を設定した。

また、都市近郊の樹林地、水辺、原野等居住地環境に比較的近く存在し、住民が健康で快適な日常生活を営む上で貴重な存在となっている自然の地域を各市町村で選定し、それらを検討整理し、「身近な自然地域」としてとりまとめた。

以上の「すぐれた自然地域」と「身近な自然地域」を合わせて、本道の「保全を図るべき自然地域」としてとりまとめ、それらの地域を将来にわたりどのように体系立てて保護し、利用していくのか、また、そのための推進方策をどう展開していくのかを明らかにした。これらを図示すると、図1に示すフローチャートのとおりである。

なお、本道の自然環境は概ね把握されているが、植物、動物等の各項目毎に、自然環境の全ての現状を詳細に把握することは極めて困難であり、また、これまで必ずしも十分な調査がなされていないため、今後、さらに自然環境に関する調査研究を推進するとともに、今回抽出した「すぐれた自然地域」及びすぐれた自然の要素の評価並びに「身近な自然地域」について、適宜見直しを行う必要がある。

第2章 自然環境保全の現状と課題

1 自然環境の現状

(1) 本道の自然環境の特質

本道は、総面積の約70%が天然林を主体とする森林で覆われ、雄大かつ変化に富む山岳、すぐれた景観の天然湖沼、広大な湿原等豊かな自然環境に恵まれている。

特に、本道の自然環境は、景観、生物相のいずれをとっても自然性豊かな北方らしい特徴を示している。

自然景観としては大雪山、日高に代表される山岳、阿寒湖、洞爺湖等の天然湖沼、釧路、サロベツ等の湿原、知床半島、積丹半島等の海蝕崖等雄大で変化に富んだ資質と規模を誇っている。

植物相をみると、ブナに代表される温帯域として位置付けられる渡島半島部を除き、ミズナラ、シナノキ、エゾイタヤ等の温帯性落葉樹と、エゾマツ、トドマツ等の亜寒帯性常緑針葉樹が入り混じる温帯から亜寒帯への移行帯として位置付けられ、また、高緯度にあることから、本州と比較して低い標高のところから亜高山性植生や高山性植生がみられる。

さらに、北方特有の広大な湿原群落や高山植物群落、海浜植生群落（原生花園）等の特徴ある植物相が各地に発達している。

また、動物相をみると、ヒグマ、ナキウサギ等の哺乳類、エゾライチョウ、シマフクロウ等の鳥類、イトウ等の淡水魚類、キタサンショウウオ、コモチカナヘビ等の両生類・爬虫類のように北方系の動物が生息しているところに特徴がある。このほか、ハクチョウ、カモ、シギ類等の渡り鳥の飛来地としても重要な位置を占めている。

なお、本道にだけ生息するタンチョウ、シマフクロウや本道を主な生息地とするクマゲラ、オジロワシ等は天然記念物に指定されている。

(2) 自然環境保全をめぐる社会経済情勢の変化

ア 自然環境に対する国民ニーズの多様化

近年、都市化の進展や国民生活における所得水準の向上、余暇時間の増大等を背景に、快適な生活環境の形成や自然とのふれあい等を求める国民のニーズが増大し、多様化している。

特に、都市化が市街地の外延的拡大を伴いながら依然として進展する中で、居住地周辺において、快適な生活環境を確保・形成する上で欠かせないいわゆる身近な自然に対する保全のニーズは、ますます高まってきている。

また、日常生活の雑事から離れ、大自然と接して精神的な安らぎや充足を得たいという国民の欲求は、我が国経済社会の高度化が進展する中で切実なものとなっており、素晴らしい自然景観や貴重な動植物を擁するすぐれた自然を確保し保全することは、以前にもまして大切なこととなっている。

さらに、自然を保護するだけではなく、保健・休養や様々なレクリエーションの場として自然と接し、ふれあいたいという国民のニーズが高まりをみせる中で、自然公園における従来の公園計画のあり方等に、新たな対応が求められている。

イ 新たな開発インパクトの増大

自然との多面的なふれあいを求める国民のニーズは、今後さらに国民の大多数が都市的環境と都市的生活様式の中で生活するようになり、また、高齢化社会、高度技術情報社会の到来が予測される中で、ますます増大していくものと考えられる。

一方、こうしたニーズの増大を背景に、自然を活用したレクリエーション産業や観光リゾート産業が発展するとともに、過疎化等に悩む地方自治体の地域活性化手段として、地方のすぐれた自然に依存する傾向が強まるものと思われる。

こうした傾向は、自然環境に対する新たな強力な利用圧、開発圧の増大となって表われ、自然環境の保護と利用との調整を一段と複雑にするものと考えられる。

(3) 自然環境の保全に係る地域指定の状況

本道は、変化に富む山岳や天然林を中心とした広大な森林、清澄な水をたたえる湖沼、広漠とした湿原をはじめ、北国でしかみられない貴重な動植物が生息・生育しており、豊かですぐれた自然環境に恵まれている。

道は、このすぐれた自然環境を将来にわたり適切に保全するため、従来からすぐれた自然の地域を自然公園等に指定してきたが、その概要は次のとおりである。

合計	179	30,046
----	-----	--------

ウ 鳥獣保護区

野生鳥獣の保護繁殖を図るため、森林性鳥獣の生息地、樹種・林相等が異なり多彩な環境を有する鳥獣の生息地、干潟・湖沼・湿原等の渡り鳥の集団渡来地や集団繁殖地、絶滅の恐れのある鳥獣の生息地、都市の生活環境の改善のため野鳥等を誘致する地区及び鳥獣保護思想の普及啓発に適した条件を備えている地域等に鳥獣保護区を設定している。

このうち、鳥獣の保護繁殖のため、特に必要のある区域を特別保護地区に指定している。

表-3 鳥獣保護区設定概況 (単位 ha)

区分	鳥獣保護区		特別保護地区	
	箇所数	面積	箇所数	面積
森林鳥獣生息地の保護区	226	203,653	88	8,027
大規模生息地の保護区	3	51,369	1	45
集団渡来地の保護区	18	46,164	10	15,237
集団繁殖地の保護区	7	2,091	6	1,389
特定鳥獣生息地の保護区	2	48,184	2	23,190
誘致地区の保護区	54	3,668	—	—
愛護地区の保護区	10	386	—	—
計	320	355,515	107	47,888

* 特別保護地区の数値は、鳥獣保護区の数値の内数である。

エ 天然記念物等

学術的に価値の高い動植物（生息地等を含む）、地質鉱物（特異な自然現象の生じている土地を含む）等の保護のため、大雪山やタンチョウ等 77 件が天然記念物等に指定されている。

表-4 天然記念物等の指定概況

区分	種別	件数	備考
国指定	特別天然記念物	6	阿寒湖のマリモ、タンチョウほか 天売島海鳥繁殖地、釧路湿原ほか 天都山
	天然記念物	39	
	名勝	1	
道指定	天然記念物	29	斜里海岸の草原群落、 夕張の石炭大露頭ほか 小清水海岸、羽衣の滝
	名勝	2	
計		77	

このほか、都市計画法に基づく風致地区 12 か所（約 3,600ha）、緑地 85 か所（約 4,400ha）及び都市緑地保全法に基づく緑地保全地区 18 か所（約 29ha）、森林法による保安林約 184 万 ha（うち、風致及び保健保安林約 126,000ha）が指定されている。

2 自然環境保全上の課題

(1) すぐれた自然の積極的な保全

すぐれた自然は、道民の健康を維持増進し、精神に安らぎと充足を与えるとともに、貴重な動植物を養い、科学の情報源、遺伝子資源の宝庫等として、今後ますますその価値が高まるものと考えられる。

本道におけるすぐれた自然を有する地域については、従来から自然公園、自然環境保全地域等に指定し、その保全に努めてきたが、なお本道には保全を図るべきかけがえのないすぐれた自然の地域が残されている。

したがって、北海道全体として改めて保全を図るべき自然の地域が、どこに、どのような内容で存在しており、またどのような水準で保全すべきなのか等について、可能な限り科学的・客観的なデータをもとに統一した基準によって明らかにするとともに、その積極的な保全について検討を進める必要がある。

(2) 身近な自然の保全

都市化の進展等に伴う身近な緑地、水辺の減少や生活環境の快適性を求める住民ニーズの増大等を背景に、居住地周辺の樹林地、河畔、野原等地域の住民が健康で快適な日常生活を営む上で欠かせない存在となっている身近な自然について、保健、休養、教化等の場としての保護、活用のニーズが高まってきている。

都市地域等の身近な自然については、都市公園法や都市緑地保全法等の法令や緑のマスタープラン等により保全が進められてきたが、今後は、都市地域周辺の身近な自然はもとより農山漁村集落周辺の身近な自然に至るまで、それぞれの自然のもつ機能がバランスよく維持管理されるよう既存の諸制度を活用し、体系的な保全を図っていく必要がある。

(3) 野生動物の保護対策の推進

本道には、ヒグマ、クロテン、ナキウサギやタンチョウ、シマフクロウ、エゾライチョウ等本州ではみられない北方系の動物が生息しており、また、良好な自然環境に恵まれていることから、居住地周辺の身近な自然においても、シマリス、キツネ、エゾシカ、シマアオジ等大小各種の動物に接する機会が少なくない。

しかしながら、野生動物の生息環境に比較的恵まれている本道においても、開発の進展に伴う野生動物の生息域の縮小や生息環境の変化等により、ウミガラスのように個体数が減少傾向にあり絶滅に瀕している鳥類や、ヒグマのように捕獲数が多いため、狩猟や有害鳥獣駆除のあり方について論議を呼んでいる動物もある等、減少傾向の著しい鳥獣の一層の保護対策が求められている。

こうした状況に適切に対応するため、減少傾向の著しい種を中心に生息環境や分布、生態等に関する調査を継続的に実施し、生息環境の把握に努めるとともに、野生動物の適正な保護管理のあり方について検討を進める必要がある。

(4) 自然環境の保全に関する道民コンセンサスの形成

本道は、高度に発達した産業社会であるわが国にあって、最も人間活動の影響の少ない豊かな自然に恵まれており、この道民共有の財産を大切に守り、次代に継承していくためには、道民の一人ひとりが本道の自然を愛し、自然に親しみながら、自然のもつ機能や役割を正しく理解し行動することが重要である。このため、可能な限り科学的・客観的なデータをもとに、統一した評価基準によって本道の保全を図るべき自然とその価値や保全の態様等を明確にするとともに、自然の保護と利用に関する基本的な施策の方向を道民に提示して、本道の自然環境の保全について広く道民のコンセンサスを求め、理解と協力を得てゆく必要がある。

また、広く道民の間に自然保護思想の普及啓発を進めることはもとより、ナショナル・トラスト運動等道民の自主的で建設的な自然環境の保全運動についても、これを助長する必要がある。

(5) 自然環境の保全と開発との調整

本道においては、自然とのふれあいを求める国民ニーズの増大等を背景に、レクリエーション産業や観光リゾート産業の発展が見込まれるとともに、引き続き都市化の進展や道路、空港等の交通体系の整備等が進むとみられることから、自然環境に対する開発インパクトは今後一層増大するものと考えられる。

こうした中で、自然環境の適切な保全を図っていくためには、環境影響評価制度の有効かつ適切な運用を図ることはもとより、各種開発事業の実施に先立つ基本計画等の策定段階から、自然環境への十分な配慮が望まれる。

その場合、本道全域において、保全を図るべき自然とその内容や価値等をあらかじめ明らかにしておくことが、事前調整の重要な方途となるであろう。

第3章 本道の「保全を図るべき自然地域」の概要

1 「保全を図るべき自然地域」の考え方

本道は、日本の中でも特に雄大かつ豊かな自然環境に恵まれている。この豊かな自然は、人間を含めたあらゆる生命を育む母胎であることはもとより、道民の生活と文化を形成する上で限りない恵みを与えてくれるかけがえのない存在である。+

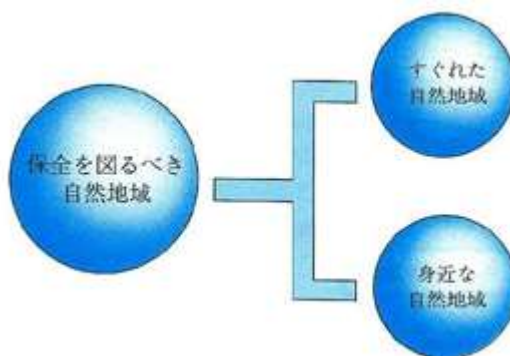
この道民共有の貴重な財産である本道の自然環境は有限な資源であることから、これを損うことなく、より豊かな自然環境として次の世代に継承していかなければならない。

したがって、本道の良好な自然環境を適切に保全していくためには、守るべき自然はこれを厳正に守るとともに、自然の利用に当たっては、節度ある利用を図るという基本的認識に立って、各般にわたる行政施策を展開することが必要である。

このためには、北海道の全域について自然の現状を的確に把握するとともに、科学的・客観的なデータに基づいて、将来に向けて長期的・計画的に保全（保護と利用）を図っていかなければならない自然を明確に提示することが前提となる。

なお、本指針の「保全」とは、自然の保護と利用をあわせた概念であって、自然を良好な状態に保ちながら、人間生活の向上のために自然資源の永続的で合理的な活用を図ることを意味し、さらに自然の復元や緑化なども含むものである。

ここで、近年の行政課題や住民ニーズなどから判断して、今後自然環境の保全に当たって格別の配慮が必要と考えられる自然の地域を、特に「保全を図るべき自然地域」として次の二つに区分して整理する。



ここでいう「すぐれた自然地域」とは、

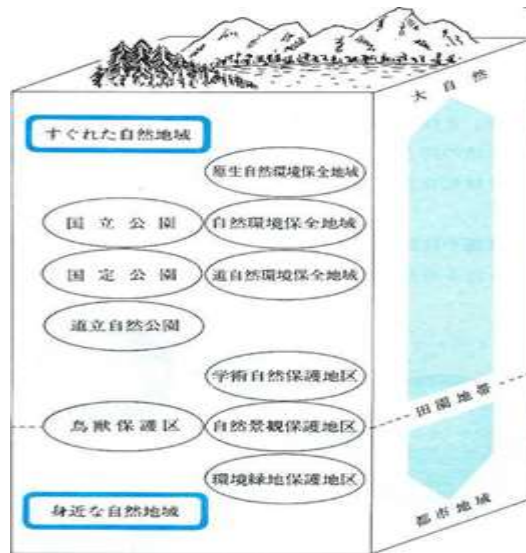
自然を構成する要素である植物、動物、地形・地質、景観等の規模や資質に着目すると、その原初性、希少性、学術性、景観美等において、他の地域より比較的秀でている自然の地域

であり、「身近な自然地域」とは、

都市近郊の樹林地、水辺、原野等居住地環境に比較的近く存在し、地域の住民が健康で快適な日常生活を営む上で貴重な存在となっているような自然の地域

と位置付けられる。

仮に、既存の法令による指定地域により分けをすると、概ね次のようなイメージとなるであろう。



自然環境の保全については、これまで原始性が高く、稀少性、学術性等の面で貴重な自然、すぐれた風景地等のいわゆるすぐれた自然の保全が優先される傾向があり、それらの主に奥山に位置するすぐれた自然は自然環境保全法や自然公園法等の法制度により保全が図られている地域が多い。

一方、居住地周辺の身近な自然については、都市地域等では都市公園法や都市緑地保全法等の法制度や緑のマスタープラン等により保全が進められており、また、近年都市化の進展や労働時間の短縮に伴う余暇時間の増大等を背景として、居住地周辺の樹林地、水辺、原野等地域の住民が健康で快適な日常生活を営む上で欠かせない存在となっている身近な自然を保護し、さらに新たな緑地を創造するとともに、緑やホタル、トンボ等の小動物にふれあえる機会の拡大等その積極的な活用が望まれてきている。

このため、本指針では、「すぐれた自然地域」とともに、「身近な自然地域」についても将来的に保全を図っていくことが望ましい自然の地域として位置付け、保護と利用が同時に満たされるような施策を展開することとする。

2 「すぐれた自然地域」の明確化

(1) 「すぐれた自然地域」の考え方

自然は、いうまでもなく人間を含めたあらゆる生命を育む母胎であり、人間の生存と精神に限りない恵みを与えるかけがえのない存在である。

それゆえ、自然の有する価値については本質的に優劣はありえないものであり、本道のすべての自然について、その特性や仕組みを十分に理解するとともに、自然からの恵みを将来にわたって確保するため、その持続的で効果的な保護と利用を図る必要がある。

このような基本認識のもとに、「すぐれた自然地域」は、次項で述べるように本道の多様な自然地域の中から、自然を構成する要素である植物、動物、地形・地質、景観等に着目し、規模や資質（原始性、稀少性、学術性、景観美）等一定の価値判断に基づき、それらが他の地域より比較的秀でていく地域として抽出されている。

したがって、これらの地域は、本道において豊かですぐれた北方らしい自然の特徴を有する地域であり、その保護と利用に当たっては、特に適切な措置や慎重な配慮を必要とする自然地域である。

しかし、留意すべきことは、今回の作業において、「すぐれた自然地域」として抽出されなかった地域のすべてが、重要性の劣る自然地域であるということではない。

その理由としては、本来自然そのものに優劣がありえないことに加えて、今回の「すぐれた自然地域」の抽出作業は、現在までに収集され蓄積されたデータ及び一定の価値基準（その価値基準そのものが絶対性をもち得ないものである）に基づいて行われているが、本道の自然地域やその内容に関する今後の調査精度の向上及び価値基準の変更によっては、新たにすぐれた自然の要素を有する地域が見出される可能性があるためであり、さらに、普遍的に存在する自然地域であっても、ある種の生物などの保護等にとっては不可欠な存在意義を有する場合があるが、それらの地域は、今回のようなすぐれた自然の資質に着目した抽出方法では捕捉されていないためである。

〔例えば、ヒグマやエゾシカのような本道に特徴的で重要な大型獣は、その種の維持のためには広大な生息域を必要とするが、開発の進展に伴ってすでにその広大な生息域の分断が起こってお

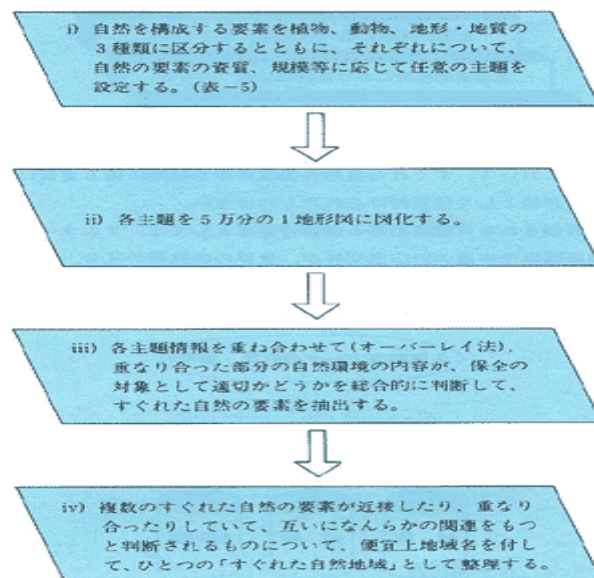
り、その場合、生息域を結ぶ移動帯（回廊）等の確保が種の維持にとって極めて重要となるが、それらの回廊は、通常、普遍的に存在する自然（森林）地域に他ならない]

したがって、今後とも、本道の多様な自然地域とその内容について、それぞれの自然の資質に即した適切な措置や配慮がなされるよう、必要かつ十分な知見の収集に努めるとともに、今回抽出された「すぐれた自然地域」についても現況の把握を行い、評価や区域の見直し、新たな要素や地域の追加などを適宜進めていく必要がある。

なお、北方領土については、現在実質的には行政権が及んでいないことから、領土問題の解決後の検討課題となるものである。

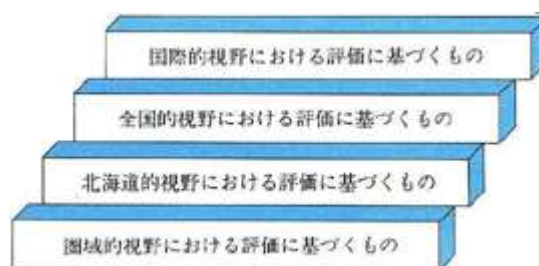
(2) 「すぐれた自然地域」の抽出方法

「すぐれた自然地域」の抽出に当たっては、環境庁が実施した第1～3回自然環境保全基礎調査（昭和48～62年度）の調査結果をはじめとして、北海道が単独で実施した自然環境に関する各種調査事業の調査結果から得られた基礎データをベースとして、以下の手順により行った。



以上のような作業の結果、全道で73種821のすぐれた自然の要素及び166か所の「すぐれた自然地域」が得られた。

なお、すぐれた自然の要素の抽出に当たっては、次項で述べる保全水準（自然の要素の評価基準）を予め意識して、植物、動物、地形・地質のそれぞれに係る自然の要素の資質や規模等に応じて、次のような区分によりランク付けして整理した。（表-6）



なお、今回の検討において、すぐれた自然の要素の中で植物に係る要素については、資質が国際的視野における評価として位置付けられたものはない。

本道で国際的に評価される可能性のある植物の要素としては、ラムサール条約の登録湿地に指定されている釧路湿原や本道の針広混交林が、世界の森林帯の区分上タテワキアと位置付けられていることから、針広混交林の代表的な森林が対象と考えられる。

しかし、釧路湿原については、「国際的レベルで重要な動物とその環境」として、動物に係る要素の中で植物要素を含めて国際的な評価に位置付けした。タテワキアの名で示される森林については、その範囲が大きく区域を規定することが難しいこと等により、今回の検討においてはその要素

を含む小地域をいくつか抽出したが、今後のすぐれた自然の要素や地域の見直しに際してさらに検討を進め、適切な評価を行うことが必要である。

図-3 すぐれた自然地域の抽出に至る作業フロー

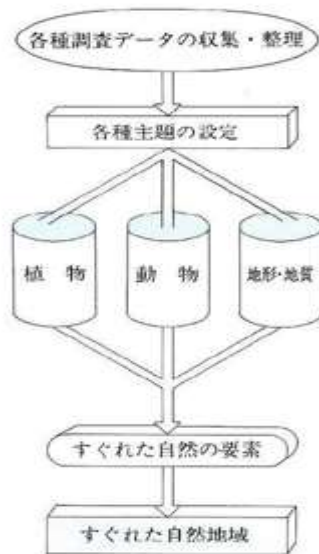


表-5 すぐれた自然の要素抽出のための各種主題一覧表

区分	主題名	主な関係調査
植物	特定植物群落	環境庁基礎調査（特定植物群落調査）
	準特定植物群落調査	同上
	特異な植生	環境庁基礎調査（植生調査）
	貴重植物種採取地	環境庁基礎調査（すぐれた自然調査）
	すぐれた湿原	特定環境概況調査（湿原）
	すぐれた草原	同上（草原）
動物	すぐれた動物生息地	環境庁基礎調査（すぐれた自然調査） （動物分布調査）
	貴重な鳥類生息繁殖地	環境庁基礎調査（動物分布調査）
		環境庁タンチョウ特別調査
		タンチョウ生息状況一斉調査 北海道における鳥類の地域別生息状況
	マークすべき淡水魚類分布地	環境庁基礎調査（湖沼調査、河川調査） （動物分布調査）
	マークすべき両生類分布地	環境庁基礎調査（動物分布調査）
大・中型哺乳類生息地	同上 野生動物分布等実態調査	
地形・地質	すぐれた湖沼	環境庁基礎調査（湖沼調査）
	すぐれた河川	特定環境概況調査（河川）
	すぐれた地形・地質・自然現象	環境庁基礎調査（すぐれた自然調査） （自然景観資源調査）

* 環境庁基礎調査 ～ 環境庁自然環境保全基礎調査（第1～3回）

表-6 資質水準別すぐれた自然の要素一覧表

I 植物

国際的視野における評価に基づくもの	全国的視野における評価に基づくもの	北海道の視野における評価に基づくもの	圏域的視野における評価に基づくもの
	・大規模な原生林	・原生林若しくはそれに近い森林	

		・すぐれた天然林	・天然林
	・日本を代表する高山植生	・すぐれた高山植生	・高山植生
	・特異な基岩に基づく植生	・特異な基岩に基づく植生	・特異な基岩に基づく植生
	・日本を代表する湿原	・すぐれた湿原	・湿原
	・特異な海岸植生	・すぐれた海岸植生	・海岸植生
	・分布上重要な植物生育地	・分布上重要な植物生育地	・分布上重要な植物生育地
	・日本を代表する自然草原	・すぐれた自然草原	・自然草原
	・火山植生	・火山植生	
			・天然防風林

II 動物

国際的視野における評価に基づくもの	全国的視野における評価に基づくもの	北海道的視野における評価に基づくもの	圏域的視野における評価に基づくもの
	・水鳥類大規模飛来地	・水鳥類主要飛来地	・水鳥類飛来地
・国際的レベルで重要な生物とその環境（タンチョウ）	・全国的レベルで重要な生物とその環境（ナキウサギ、タンチョウ、シマフクロウ、コモチカナヘビなど）	・ナキウサギ繁殖地	
	・特殊鳥類繁殖地（クマガラ、オジロワシ）	・特殊鳥類繁殖地（クマガラ）	・特殊鳥類飛来地（タンチョウ、オジロワシ、オオワシなど）
		・すぐれた森林性鳥類繁殖地	・森林性鳥類繁殖地
		・アオサギ主要集団繁殖地	・アオサギ集団繁殖地
	・海獣繁殖地	・海獣回遊地	・海獣回遊地
			・猛禽類繁殖地（ハヤブサ、チゴハヤブサなど）
	・海鳥類大規模繁殖地	・海鳥類主要繁殖地	・海鳥類繁殖地
	・全国的にも類のない特有の魚類とその環境（イトウなど）	・オショロコマ（湖沼性）の生息地 ・イトウのすむ川（湖沼） ・ヒブナのいる湖沼	・ヒメマスのある湖沼
	・全国的にも類のない特有の昆虫類とその環境（ウスバキチョウ、アサヒヒョウモンなど）	・特異な昆虫等生息地	・特異な昆虫生息地

III 地形・地質

国際的視野における評価に基づくもの	全国的視野における評価に基づくもの	北海道的視野における評価に基づくもの	圏域的視野における評価に基づくもの
・国際的レベルで重要な火山現象とその地形	・全国的レベルで重要な火山現象とその地形		
	・日本を代表する構造山地		・地域を代表する山岳
・国際的レベルで重要な天然湖沼	・日本を代表する天然湖沼	・すぐれた天然湖沼	・良好な天然湖沼 ・すぐれた人工湖沼
	・大規模海蝕崖	・中規模海蝕崖	・海蝕崖
		・すぐれた砂丘・砂浜	・良好な砂丘・砂浜

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を代表する特異な地形・景観 ・日本を代表する寒冷地形 	<ul style="list-style-type: none"> ・特異な地形・景観（火山島、大規模な砂嘴など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特異景観（溪谷、自由蛇行河川など）
		<ul style="list-style-type: none"> ・全道を代表する展望地 	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な展望地

(3) 保全水準の設定

ア 保全水準の意義

公害行政における環境基準のように、自然環境とその構成要素についての評価や判断基準の必要性は、従来から指摘されてきたところであるが、多様かつ複雑な自然を客観的に評価することが難しいため、この種の判断基準が得られないで今日に至っている。

特に、自然環境の資質については、これを計量化することには困難が多く、自然環境に対する評価が観念的になりがちな傾向が強かった。

しかし、今後、自然環境保全行政をより科学的かつ適切に推進するためには、自然の保護と利用のあり方を統一した判断基準で評価するものさしが必要である。

このため、本指針においては、自然の特質を総合的に評価する手段として保全水準（自然の評価基準）を設定し、自然環境保全行政のみならず、道民や事業者、他の行政機関等においても、自然環境に対する自発的な配慮を行うためのものさしとして活用されるよう期待するものである。

イ 保全水準の考え方

本指針では、全道で73種821のすぐれた自然の要素及び166か所の「すぐれた自然地域」が得られたが、これらの地域がどの程度の自然の資質を持ち、また、どの程度の水準で保護・利用すべきかを明らかにする必要がある。

このため、各々の「すぐれた自然地域」を構成しているすぐれた自然の要素毎に適正に価値評価を加えるため、それぞれの自然の要素の資質及び保護・利用のあり方に着目し、保全水準を設定した。

保全水準は、「資質水準」、「保護水準」、「利用水準」の3項目からなる。「資質水準」は、自然の評価をその重要性に応じて「国際的レベル」、「全国的レベル」、「全道的レベル」、「圏域的レベル」にランク付けした。

また、自然の資質の稀少性、脆弱性、不安定性に着目し、その程度が強い順に4ランクの「保護水準」を設定するとともに、自然の利用のあり方の態様や現況を改変する行為の程度に応じ、4ランクの「利用水準」を設定した。

保全水準の各項目を言葉を変えていうならば、「資質水準」は「保護の相当性」、「保護水準」は「保護の重要性の程度」、「利用水準」はそれらと連動して出てくる「利用の程度」を示すものといえる。

ウ 保全水準による評価

本指針では、上記のように、すぐれた自然の要素毎に保全水準をあてはめて評価しているが、この保全水準は、自然公園や自然環境保全地域等のような既存の法制度に基づく規制とは異なり、法令による行為規制を直接的に伴うものではない。

また、保全水準による評価は、前述のようにすぐれた自然の要素に対するものであり、「すぐれた自然地域」の自然環境全体に対する総合的な評価はしていない。

これは、本指針における「すぐれた自然地域」は、複数のすぐれた自然の要素が近接したり、重なりあったりして、互いに何らかの関連をもつと判断されたものについて、便宜上地域名を付して一つの地域として整理しており、同一地域のなかに複数のすぐれた自然の要素が重複して存在することから、個々の地域毎の総合的な評価は極めて困難であるためであり、また、このような自然の要素の複合評価手法の確立は今後の課題であることによるものである。

したがって、「すぐれた自然地域」において、道民、事業者、行政機関等が各種の開発行為等を行うに際しては、該当する地域毎にすぐれた自然の要素に係る動植物等の存在の有無を確認し、保全水準による評価の趣旨に沿って、自発的な自然環境への配慮が行われるよう期待するものとして運用される。

なお、各地域毎のすぐれた自然の要素の掲出に当たっては、同系列の要素が複数存在する場合は資質が上位の要素をもって代表させている。例えば、ある「すぐれた自然地域」内にすぐれた自然の要素として「大規模な原生林」、「原生林もしくはそれに近い森林」、「すぐれた天然林」、「天然林」の森林系に係る各要素が存在する場合には、最上位の資質の「大規模な原生林」を掲げることにより森林系の要素を代表させており、より下位の資質に係る要素は省略している。

次に、保全水準として掲げている「資質水準」、「保護水準」、「利用水準」の各項目に係る取扱いは、以下のとおりである。

「資質水準」、「保護水準」はともに自然の現況についての評価であるが、「資質水準」は各々のすぐれた自然の要素を相対的に評価し、重要性の程度を4つのランクにより示したものであるのに対して、「保護水準」は各々のすぐれた自然の要素についての具体的な保護の重要性の程度を示すものであることから、各種開発行為を行うに際しては、「保護水準」に掲げる「保全のスタンダード」の趣旨に沿って、自然環境に対して配慮されるよう期待するものである。

例えば、森林施業の実施に際しての保護水準による取扱いを想定すると、保護水準1の森林については原則として禁伐によること、保護水準2の森林については原則として禁伐によることを期待するが、当該自然環境の保全に支障を及ぼすおそれの少ない場合並びに自然の維持・復元に必要な場合は択伐法によることができること、保護水準3の森林については択伐法による施業を期待する

が、当該自然環境の保全に配慮する場合は皆伐法によることができること等が運用の目安として考えられよう。

なお、既存の法制度に基づく指定地域（自然公園等）については、それぞれの法制度により取り扱われることはいうまでもない。

また、動物系の要素については、動物は広域にわたる移動性をもつものが多く、個々の種の生態が必ずしも十分に解明されていないことから、その保護に当たっては生息環境が適切に保全されることが重要である。なかでも、「特殊鳥類繁殖地」のクマゲラのように繁殖地が広い地域に点在している要素については、各種開発行為の実施に際しては、繁殖環境への影響を避ける等の配慮を期待するものである。

「利用水準」は、今後の自然のあるべき利用の程度を示すものである。また、利用水準の「利用」とは、保健、休養、教化という面からの自然の利用を意味するものである。なお、「地域を代表する山岳」の利用水準については、眺望対象としての観点から評価している。

また、2つ以上のすぐれた自然の要素が重複して存在する部分については、評価のより上位のランクの要素をもって、その部分の利用水準として運用されることになる。

表-7 保全水準（自然の評価基準）

1 資質水準

区分		内容
I	国際的レベル	国際的レベルで評価されるもの（地球的規模で分布の特異性やつながりを有し、あるいは移動・回遊する等、国際的視野で考慮に値し、本道がその存在に重要な役割を果たしているもの）。
II	全国的レベル	日本の国内的レベルで評価されるもの（国内的な規模で分布の特異性やつながりを有し、あるいは移動・回遊し、または、日本国内に生存地域が限られていたり、数や規模が減少またはその過程にある等、国内的視野で考慮に値し、本道がその存在に重要な役割を果たしているもの）。
III	北海道的レベル	道内の範囲及びその近接周辺地域や海域で評価されるもの（道内やその近接周辺地域・海域に生存が限られていたり、数や規模が減少またはその過程にあるものや、現状では問題がなくても、利用のされ方によっては将来的に減少、悪化のおそれがあるものを含む）。
IV	圏域的レベル	自然的・社会的条件等に基づき区分した5つの圏域で、良好な自然として評価されるもの。

2 保護水準

区分		保全のスタンダード
I	自然（動植物の生息、生育環境等）の資質が、{稀少、脆弱、不安定}	当該自然とその環境がそのままの状態でも維持できるように、周辺を含めて厳正な保全を図る。
II	" {やや稀少、脆弱、不安定}	当該自然とその環境が適切に維持できるように、保全を図る。
III	" {やや普遍、安定}	当該自然の主要な部分あるいは要素について、保全を図る。
IV	" {普遍、安定}	各種土地利用計画、地域開発計画のなかで調和のとれた保全に努める。

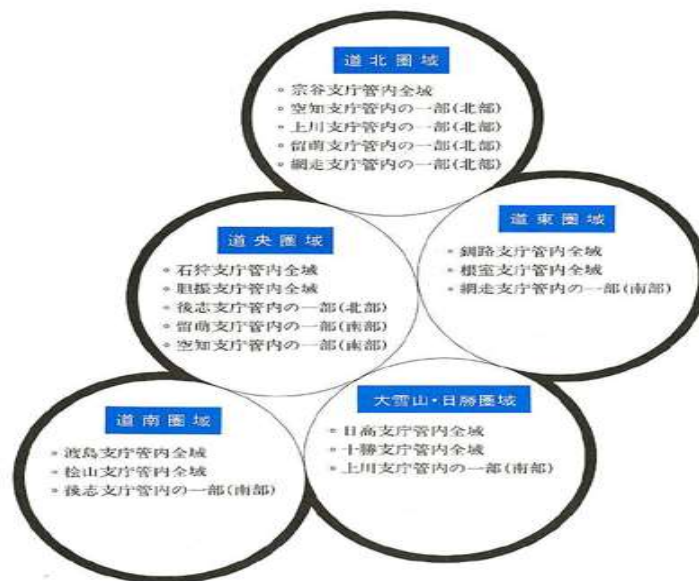
*自然の資質については、稀少であるが安定しているという場合もあるので、すべての項目（例えば、稀少、脆弱、不安定）が同時に該当していなくてはならないというわけではない。

3 利用水準

区分	
I	自然の容量の範囲内での学術研究、徒歩による自然探勝等に利用を限定する。
II	原則的に徒歩による自然探勝、自然観察、キャンプ、景観鑑賞等の利用を図る。
III	自然と密着し、ふれあえる野外レクリエーション等の利用を図る。
IV	自然環境を生かした計画的な野外レクリエーション等の利用を図る。

(4) 「すぐれた自然地域」の概要

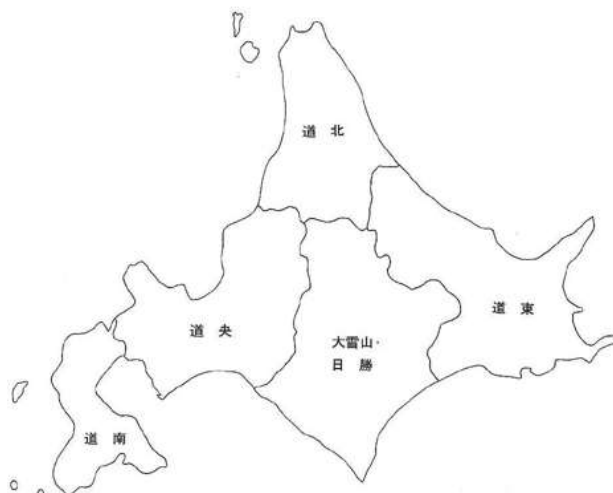
本道は、全国土の2割以上という広大な面積を有するため、すぐれた自然地域をとりまとめるに当たっては、自然的・社会的諸条件等を勘案して、便宜上、次の5圏域に区分することとする。



これらの各圏域における自然環境全般の概況及び「すぐれた自然地域」の内容は、次のとおりで

ある。

図-4 圏域別区域図



[I] 道南圏域

本道最南端に位置する本圏域 (746, 336ha 全道比 9.5%) は、5 圏域のうち最も小さい。

気候は日本海を北上する対馬暖流の影響を受け全般的に温暖である。半島脊梁部と松前、恵山の両方向に急峻な山脈が走っているため、河川の大部分が中小規模であり、平野は函館湾と噴火湾沿いに発達している程度である。

大沼、小沼のほかは見るべき湖沼はないが、海蝕崖の広く発達した海岸線は自然状態がよく保たれており、自然海岸の占める割合が高い。

松前の南西海上に浮かぶ渡島大島は、天然記念物オオミズナギドリ繁殖地として有名である。

保全地域は、合わせて3か所（うち1か所は道央圏域にまたがる）で、本道唯一の自然環境保全地域（大平山 674ha）がある。

自然公園は国定公園1か所、道立自然公園が4か所あり（計53,202ha）、環境緑地保護地区等は20か所、2,887haが指定されている。

これらの合計面積は57,644haで、圏域比（圏域面積に対する圏域内指定面積の割合）7.7%は全道比（全道面積に対する道内指定面積の割合）11.4%をかなり下回っている。

鳥獣保護区は43か所、43,037haで、圏域比は5.8%と全道比4.5%を大幅に上回っている。

すぐれた自然の要素についてみると、本圏域は温帯域に属していることから、＜植物＞では、ヒノキアスナロ、ブナ、トドマツ、エゾマツ等の「分布上重要な植物生育地」、「すぐれた天然林」等に特徴がみられる。

＜動物＞では、大沼をはじめとする「水鳥類飛来地」、また＜地形・地質＞では、大沼、恵山等の「全国的レベルで重要な火山現象とその地形」や海蝕崖が比較的多い。

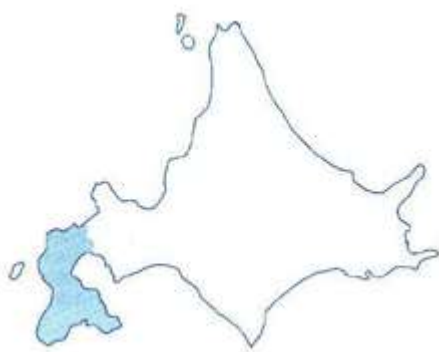


表-8 「すぐれた自然地域」 一覧表 (道南圏域)

凡例	保全水準の	「資」……資質水準	鳥獣保護区	(森)……森林鳥獣生息地の保護区
	〃	「保」……保護水準	〃	(大)……大規模生息地の保護区
	〃	「利」……利用水準	〃	(渡)……集団渡来地の保護区
			〃	(繁)……集団繁殖地の保護区
			〃	(特)……特定鳥獣生息地の保護区
			〃	(誘)……誘致地区の保護区
			〃	(愛)……愛護地区の保護区

No	すぐれた自然地域	すぐれた自然の要素		主要な位置	保全水準			市町村名	備考
		要素	内容		資	保	利		
1	相沼湖	天然林	エゾイタヤシナノキ群落等	相沼湖周辺	4	3	3	熊石町	・相沼湖自然 景観保護地区
		水鳥類飛来地	カモ類等	相沼湖	4	3	2		
		すぐれた人口湖沼	—	同 上	4	4	3		
2	厚沢部川流域	分布上重要な植物生育地	ゴヨウマツ 自生北限地	鶺鴒川上流	2	1	2	厚沢部町	・天然記念物 (国) 「鶺鴒川ゴヨウ
		特殊鳥類繁殖地	クマガイ	同 上	3	3	2		

												マツ 自生北限地帯」
3	浮島	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	浮島周辺	4	3	3	北桧山町				・浮島環境緑地保護地区
		水鳥類飛来地	カモ類等	浮島	4	3	2					
		特異な地形・景観	浮島	同 上	4	1	2					
4	歌才	分布上重要な植物生育地	ブナ自生北限地	歌才	2	1	1	黒松内町				・歌才鳥獣保護区(森) ・天然記念物(国) 「歌才ブナ自生北限地帯
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同 上	3	3	2					
5	歌棄海岸	海岸植生	海岸草原	歌棄海岸	4	3	2	寿都町				
		良好な砂丘・砂浜	—	同 上	4	3	4					
6	恵山	火山植生	火山植生、自然裸地、高山ハイデ及び風衝草原、サラサドウダン群落等	恵山	2	2	2	恵山町 戸井町 榎法華村 南茅部町				・恵山道立自然公園 ・恵山鳥獣保護区(森)
		分布上重要な植物生育地	キタゴヨウマツ南限自生地	恵山周辺	3	1	2					
		天然林	ブナーチシマザサ群落等	川汲峠周辺	4	3	3					
		海岸植生	キリンソウ、エゾカワラナデシコ、コハマギク、ラセイタソウ、ガンコウラン等	尾札部～恵山、日浦海岸	4	2	2					
		分布上重要な植物生育地	オオサクラソウ、ミヤマキヌタソウ、マルバキンレイカ等	川汲峠周辺	4	1	2					
		水鳥類飛来地	アカエリヒレアシシギ、コクガン等	恵山海岸	4	3	2					
		海鳥類繁殖地	カモメ 類等	武井の島	4	3	2					
		全国的レベルで重要な火山現象とその地形	—	恵山	2	2	2					
中規模海蝕崖	—	南茅部海岸(木直海岸)、恵山の海岸(原木、二見、日浦海岸)	3	3	3							
7	大島・小島	分布上重要な植物生育地	コジマエンレイソウ	小島	4	1	1	松前町				・松前矢越道立自然公園 ・大島鳥獣保護区(繁) ・小島鳥獣保護区(繁) ・天然記念物(国) 「オオミズナギドリ海鳥繁殖地」(大島) 「松前小島」
		自然草原	海岸台地草原等	大島、小島	4	2	1					
		海鳥類大規模繁殖地	オオミズナギドリ、ケイマフリ、ウトウ等	大島、小島	2	1	1					
		猛禽類繁殖地	ハヤブサ	大島	4	2	2					
		全国的レベルで重要な火山現象とその地形	噴気孔等	同 上	2	2	2					
		中規模海蝕崖	—	同 上	3	3	2					
		特異な地形・景観	火山島	同 上	3	2	2					
8	大沼	火山植生	自然裸地、高山ハイデ及び風衝草原等	駒ヶ岳周辺(北・東麓)	3	2	2	七飯町 鹿部町 砂原町 森町				・大沼国定公園沼鳥獣保護区(森)
		天然林	コナラーミズナラ群落等	大沼、小沼周辺	4	2	3					
		分布上重要な植物生育地	エゾノミズタデ、エゾムラサキ等	小沼周辺	4	1	2					
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	大沼	3	3	2					
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ 類等	大沼、小沼、蓴菜沼	4	3	2					

		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ等	大沼、小沼周辺	4	3	2		
		全国的レベルで重要な火山現象とその地形	噴気孔等	駒ヶ岳山頂周辺	2	2	2		
		すぐれた天然湖沼	—	大沼、小沼、蓴菜沼	3	3	3		
		地域を代表する山岳	—	駒ヶ岳 (1133m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	多島景観、流れ山地形等	大沼、駒ヶ岳	3	3	3		
9	大平山	日本を代表する高山植生	オオヒラウスユキソウ、オオヒラミミナグサ、チョウノスケソウ等	大平山周辺	2	1	1	島牧村	・狩場茂津多道立自然公園 ・大平山自然環境保全地域
		特異な基岩に基づく植物	石灰岩植物、イチョウシダ、オオヒラウスユキソウ等	大平山山頂周辺	2	1	1		
		すぐれた天然林	ブナ林、ミヤマハンノキ、ダケカンバ群落等	大平山周辺	3	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		特異な地形・景観	溪谷	泊川	4	3	3		
10	奥尻島	すぐれた海岸植生	砂丘植生、海岸断崖植生等	東風泊、青苗、見取澗、親石岬、磯谷岬	3	2	2	奥尻町	・桧山道立自然公園 ・奥尻島獣保護区(森)
		天然林	ブナ・チシマザサ群落等	奥尻島	4	3	3		
		分布上重要な植物生育地	マルバマンサク、ヤブコウジ、ナツエビネ、シュンラン	同上	4	1	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	同上	4	3	2		
		海蝕崖	—	稲穂岬、穴澗岬周辺	4	3	3		
		特異な地形・景観	奇岩	鍋釣岩、ホヤ石海岸	4	3	3		
11	狩場茂津多	日本を代表する高山植生	ハイマツ・コケモモ群落、雪田草原等	狩場山周辺、メツ岳周辺	2	1	1	島牧村 瀬棚町 北桧山町 寿都町	・狩場茂津多道立自然公園
		すぐれた天然林	ダケカンバ・ササ群落、ブナ・チシマザサ群落等	同上	3	3	3		
		海岸植生	海岸断崖植生等	狩場茂津多海岸	4	2	2		
		分布上重要な植物生育地	エゾマンテマ、ヒメスギラン、エゾノホソバトリカブト等	須築川、イワナの沢、東狩場山西側、狩場山	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	狩場山周辺	3	3	2		
		中規模海蝕崖	—	寿都海岸、原歌、茂津多海岸、三本杉付近の海岸	3	3	3		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	江の島海岸、豊浜海岸	3	3	3		
		特異な地形・景観	大規模な滝、溪谷	賀老の滝	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	狩場山 (1520m)	4	3	4		
12	木地挽山・仁山高原	自然草原	シバ草原	木地挽山周辺、仁山高原	4	2	2	大野町 七飯町	・大沼島獣保護区(森)(一部) ・仁山自然景観保護地区
		良好な展望地	—	仁山高原	4	3	4		
13	見市川流域	分布上重要な植物生育地	ヒノキアスナロ 北限地	見市川流域	3	1	2	熊石町	・桧山道立自然公園 ・見市島獣保護区(森)
		特異な地形・景観	柱状節理	赤岳南斜面	4	2	3		
		良好な展望地	—	雲石岬	4	3	3		

14	静狩・礼文華	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	静狩・礼文華海岸周辺	4	3	3	長万部町 豊浦町	・静狩礼文華道自然環境保全地域
		海岸植生	カシワ 林等	静狩海岸（静狩～長万部・朝日浜）	4	3	2		
		中規模海蝕崖	—	静狩・礼文華海岸	3	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	静狩海岸（静狩～長万部・朝日浜）	4	3	3		
15	大千軒岳周辺	すぐれた高山植生	ササ自然草原、ダケカンバーササ群落等	大千軒岳～百軒岳周辺	3	2	1	松前町 福島町 上ノ国町	・大千軒岳道自然環境保全地域 ・大千軒誇腰学術自然保護地区
		天然林	ブナ林、ダケカンバーササ群落等	大千軒岳、黄金岳～百軒岳周辺	4	3	3		
		分布上重要な植物生育地	マルバキンレイカ、ヒメスギラン、エゾノホソバトリカブト、アツモリソウ等	大下軒岳周辺	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同 上	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ダイセンゲンオサムシ、フジミドリシジミ、オオゴマシジミ 等	大千軒岳周辺、知内川上流	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	大千軒岳（1072m）	4	3	4		
16	椴川源流部	分布上重要な植物生育地	アオトドマツ自生地、ヒノキアスナロ群落	椴川源流部	3	1	2	江差町	・椴川鳥獣保護区（森） ・天然記念物（国）「ヒノキアスナロ及びアオトドマツ自生地」
		天然林	トドマツ群落等	目名沢付近	4	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	椴川源流部	3	3	2		
17	トドメキ川瓢箪沼	良好な砂丘・砂浜	—	トドメキ川河口～瓢箪沼海岸	4	3	3	鹿部町 砂原町	
		特異な地形・景観	火山海岸	同 上	4	3	3		
18	七ツ岳周辺	天然林	ダケカンバーササ群落、ブナ林等	七ツ岳周辺	4	3	3	上ノ国町 福島町 知内町	
		地域を代表する山岳	—	七ツ岳（957m）	4	3	4		
		良好な天然湖沼	—	七ツ岳沼	4	3	2		
19	函館山周辺	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	函館山	4	3	3	函館市	・函館山鳥獣保護区（森）
		すぐれた森林性鳥類繁殖地	—	同 上	3	2	2		
		全道を代表する展望地	—	函館山、立待岬	3	3	4		
20	桧山海岸	すぐれた海岸植生	海岸断崖植生、砂坂海岸林、アオノイワレンゲ、ピレオギク、ミヤマビャクシン等	大成町太田～江差町五厘沢	3	2	2	大成町 熊石町 乙部町 江差町 上ノ国町	・桧山道立自然公園 ・乙部しびの岬鳥獣保護区（愛） ・江差五厘沢鳥獣保護区（誘） ・天然記念物（道）「乙部鮪の岬の安山岩柱状節理」
		すぐれた自然草原	北限のシバ型草原	八幡牧場	3	2	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	天の川流域	4	3	2		
		特異な地形・景観	安山岩柱状節理	鮪の岬	3	2	2		
		良好な砂丘・砂浜	—	桧山海岸（熊石～江差、瀬棚～川尻海岸）	4	3	3		
21	松前・矢越	海岸植生	海岸断崖植生等	矢越岬周辺海岸（涌元、岩部など）、白神岬	4	2	2	福島町 松前町 知内町	・松前矢越道立自然公園 ・白神鳥獣保護区（森） ・岩部鳥獣保護区（森）
		水鳥類飛来地	アカエリヒレアシシギ、コクガン等	松前海岸部一帯	4	3	2		
		海獣回遊地	イルカ	同 上	4	3	2		

		中規模海蝕崖	—	矢越岬周辺海岸（涌元、岩部など）、白神岬	3	3	3		
		全道を代表する展望地	—	白神岬、矢越岬	3	3	3		
22	目名沢の沼	天然林	ブナーチシマザサ群落等	目名沢の沼周辺	4	3	3	上ノ国町	
		良好な天然湖沼	—	目名沢の沼	4	3	3		
23	横津岳・袴腰岳周辺	天然林	ダケカンパーササ群落、ブナーチシマザサ群落等	横津岳～台場山	4	3	3	函館市 七飯町 南茅部町	・袴腰岳自然 景観保護地区 ・横津岳自然 景観保護地区
		高山植生	コケモモ、ハクサンチドリ、タカネイバラ 等	横津岳山頂、袴腰岳山頂付近	4	1	2		
		湿原	本道最南端の高層湿原	袴腰岳湿原、横津岳湿原（雲井沼）	4	1	2		
		地域を代表する山岳	—	横津岳（1166m） 袴腰岳（1108m）	4	3	4		
		良好な展望地	—	横津岳	4	3	4		

〔Ⅱ〕 道央圏域

日本海と太平洋にはさまれた本圏域（1,745,199ha 全道比22.2%）は、道内で最も人口集中の著しい地域で、石狩平野等の平野部はほとんどが市街地化、耕地化されているが、その中にあって、野幌森林公園（2,052ha）は平野部に残されたまとまりのある貴重な森林である。

一方、標高こそ高くはないが、夕張、暑寒別等の各山地の自然状況はよく保たれている。

石狩川沿いには、大小の河跡湖（三ヶ月湖）が各地に残存しているほか、海岸部には比較的規模の大きな海蝕崖が各所に発達し、また、鶴川河口には本道最大の干潟があり、シギ、チドリ類の集団渡来地として重要なところとなっている。

保全地域は、道自然環境保全地域が1か所指定されている（道南圏域にまたがる）。

自然公園は国立公園、国定公園各1か所、道立自然公園3か所（うち1か所は、大雪山・日勝圏域とまたがる）で、計5か所、181,540ha、また、環境緑地保護地区等は79か所で17,085haが指定されている。

以上の合計面積は198,843haで、圏域比11.4%は全道比11.4%と同じである。

鳥獣保護区は73か所、63,890haで、圏域比3.7%は全道比4.5%をやや下回っている。

すぐれた自然の要素についてみると、＜植物＞では、「すぐれた天然林」が各地で見られ、＜動物＞では、規模の異なる水鳥類の飛来地や「特異な昆虫生息地」等が特徴的である。

また、＜地形・地質＞では、昭和新山に代表される「国際的レベルで重要な火山現象とその地形」、「日本を代表する特異な地形（若しくは景観）」や「大規模海蝕崖」、カルデラ湖を中心とする天然湖沼が多い。



表-9 「すぐれた自然地域」一覧表（道央圏域）

No	すぐれた自然地域	すぐれた自然の要素		主要な位置	保全水準			市町村名	備考
		要素	内容		資	保	利		
1	漁川渓谷	特殊鳥類繁殖地	クマガラ	漁川上流	3	3	2	恵庭市	
		すぐれた人工湖	—	えにわ湖	4	4	3		
		特異な地形・景観	渓谷、滝	漁川上流	4	3	3		
2	石狩海岸	海岸植生	海岸草原等	石狩川河口～銭函	4	2	3	石狩町 小樽市 厚田村	
		天然防風林	カシワ・ミズナラ林	同上	4	2	2		
		海獣回遊地	ゴマフアザラシ	石狩川河口	3	3	2		
		特異な昆虫等生息地	エゾアカヤマアリ、キタホウネンエビ	石狩海岸防風林	3	3	2		
		水鳥類飛来地	シギ・チドリ類等	石狩川河口	4	3	2		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	石狩川河口～銭函	3	3	3		
特異な地形・景観	干潟	石狩川河口	4	2	3				
3	石狩川下流部湿原	すぐれた天然林	ヤチダモ・ハンノキ群落等	矢白場	3	3	2	石狩町	
		湿原	ミズバショウ群落等	同上	4	2	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
4	石狩川沿いの河跡湖沼群	湿原	低・高層湿原	月ヶ丘湿原、美唄湿原	4	2	2	北村 月形町 美唄市 浦臼町	・月ヶ湖学術自然保護地区
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチヨウ類等	宮島沼	3	2	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチヨウ類等	中ノ沼、大沼、月ヶ湖	4	3	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	宮島沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	中ノ沼、大沼、月ヶ湖、宮島沼	4	3	3		
5	ウトナイ湖周辺	分布上重要な植物生育地	ハマナス、ハナゴケ群落等	ウトナイ湖南東岸	3	1	2	苫小牧市	・ウトナイ湖鳥獣保護区(渡)
		天然林	砂丘カシワ林、ヤチハンノキ林、コナラ林等	ウトナイ湖南東岸、柏原	4	2	2		
		湿原	低～高層湿原	ウトナイ湖周辺	4	2	2		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチヨウ類、シギ・チドリ類等	ウトナイ湖	2	2	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	ウトナイ湖周辺	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	ウトナイ湖	3	3	3		
		特異な地形・景観	内陸砂丘	ウトナイ湖南東岸	4	3	3		
6	烏帽子岳・神威岳・八剣山周辺	天然林	ダケカンバ林等	烏帽子岳、神威岳、八剣山周辺	4	3	3	札幌市	・支笏洞爺国立公園 ・八剣山自然景観保護地区 ・烏帽子岳自然景観保護地区 ・手稲鳥獣保護区(森) ・定山溪鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ジョウザンシジミ、オオムラサキ	八剣山周辺	4	3	2		
		地域を代表する山岳	—	烏帽子岳(1110m)、神威岳八剣山(501m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	岩峰	八剣山、神威岳	4	3	3		
7	小樽海岸	すぐれた海岸植生	エゾイタヤ群落、オシロソウ、アオノイワレンゲ、ハマオ	忍路カブト岬、蘭島～祝津	3	2	2	小樽市 余市町	・ニセコ 積丹小樽海岸国立公園

		現象とその地形									
		日本を代表する天然湖沼	—	支笏湖	2	3	3				
		日本を代表する特異な地形・景観	三重式火山	樽前山	2	2	2				
		すぐれた天然湖沼	—	オコタンペ湖	3	3	3				
		特異な地形・景観	溪谷	千歳川上流、コケの洞門	3	1	2				
		地域を代表する山岳	—	樽前山（1024m）、 恵庭岳（1320m）、 風不死岳（1103m）	4	3	4				
13	積丹半島	すぐれた海岸植生	オニシモツケ、エゾノカワラマツバ、ミヤマビャクシン等	積丹岬・神威岬周辺、 積丹西海岸	3	2	2	積丹町 神恵内村 古平町 余市町 泊村	・ニセコ積丹小樽海岸固定公園		
		天然林	ダケカンパーハイマツ群落、ダケカンパーササ群落等	ポンネアンチシ山周辺	4	3	3				
		大規模海蝕崖	—	半島部海岸一帯	2	3	2				
		全道を代表する展望地	—	神威岬、積丹岬	3	3	3				
		良好な天然湖沼	—	当丸沼	4	3	3				
14	暑寒別岳・雨竜沼	日本を代表する湿原	高層湿原	雨竜沼湿原	2	1	1	浜益村 新十津川町 雨竜町 北竜町 増毛町	・暑寒別道立自然公園 ・雨竜沼鳥獣保護区（森） ・天然記念物（道）「雨竜沼高層湿原帯」		
		分布上重要な植物生育地	マシケゲンゲ、マシケオトギリ、マシケマルバシモツケ	暑寒別岳	2	1	1				
		すぐれた天然林	下部針広混交林、ダケカンパ林等	暑寒別岳周辺	3	3	3				
		すぐれた高山植生	高山ハイデ及び風衝草原等、お花畑	暑寒別岳、群別岳、 浜益岳周辺	3	1	1				
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	暑寒別岳周辺	3	3	2				
		すぐれた天然湖沼	—	雨竜沼湖沼群	3	2	2				
		特異な地形・景観	溪谷、滝	ペンケペタン溪谷、 暑寒沢	3	3	3				
地域を代表する山岳	—	暑寒別岳（1491m）	4	3	4						
15	白鳥山周辺	特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生、タカネヤハズハハコ、シラトリシャジン、ミヤマホソツツジ等	白鳥山周辺	3	1	1	深川市 沼田町			
		特殊な昆虫生息地	ヒメギフチョウ	同上	4	3	2				
16	樽前湖沼群	天然林	ミズナラーエゾイタヤ群落等	湖沼群周辺の森林地域	4	3	3	苫小牧市	・錦大沼鳥獣保護区（森）		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	樽前大沼、タネト沼、 トキト沼、マッカ沼	4	3	2				
		良好な天然湖沼	—	樽前大沼、タネト沼、 トキト沼、マッカ沼、 錦大沼・小沼	4	3	3				
		特異な地形・景観	溪谷	ガロウ	4	3	3				
17	地球岬周辺	森林性鳥類繁殖地	—	測量山	4	3	3	室蘭市	・測量山鳥獣保護区（誘） ・地球岬鳥獣保護区（誘） ・トッカリシヨ自然景観保護地区		
		猛禽類繁殖地	ハヤブサ	地球岬周辺	4	2	2				
		中規模海蝕崖	—	同上	3	3	3				

		全道を代表する展望地	—	地球岬	3	3	3		
18	手稲・奥手稲山周辺	天然林	エゾマツトドマツ群落、下部針広混交林等	奥手稲山周辺	4	3	3	札幌市 小樽市	・手稲鳥獣保護区(森) ・手稲山南自然景観保護地区
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	銭函天狗山周辺	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ジョウザンシジミ、オオムラサキ	同 上	4	3	2		
		地域を代表する山岳	—	手稲山(1024m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	岩峰、岩壁	銭函天狗山	4	3	3		
		良好な展望地	—	手稲山	4	3	4		
19	洞爺湖周辺	天然林	エゾイタヤシナノキ群落等	洞爺湖岸、中島	4	3	3	洞爺村 壮瞥町 虻田町 伊達市	・支笏洞爺国立公園 ・洞爺湖鳥獣保護区(渡) ・特別天然記念物(国)「昭和新山」
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	洞爺湖周辺	3	3	2		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	—	昭和新山、有珠山	1	1	2		
		日本を代表する天然湖沼	—	洞爺湖	2	3	3		
		日本を代表する特異な地形・景観	ベロニーテ 火山	昭和新山、有珠山	2	2	2		
		地域を代表する山岳	—	有珠山(大有珠727m、小有珠608m)	4	3	4		
20	利根別自然休養林	天然林	エゾイタヤシナノキ群落等	利根別自然休養林	4	3	3	岩見沢市	・利根別鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	同 上	4	3	3		
21	ニセコ山塊	分布上重要な植物生育地	フサスギナ	大谷地湿原	3	1	2	共和町 岩内町 蘭越町 ニセコ町 俱知安町	・ニセコ積丹小樽海岸国立公園 ・コックリ湖鳥獣保護区(森) ・チセヌプリ鳥獣保護区(森) ・大谷地鳥獣保護区(森)
		天然林	ダケカンバーシナノキ群落等	ニセコ 山塊	4	3	3		
		高山植生	コケモモ、ガンコウラン	チセヌプリ、イワオヌプリ、目国内岳	4	1	2		
		湿原	ミヤマイヌノハナヒゲワタミズゴケ群落、フサスギナ 等	神仙沼湿原	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	ニセコ山塊	3	3	2		
		全国的レベルで重要な火山現象とその地形	—	イワオヌプリ、大湯沼	2	2	2		
		すぐれた天然湖沼	—	コックリ湖、長沼、大沼、神仙沼	3	3	3		
		地域を代表する山岳	—	ニセコアンヌプリ(1308m)、イワオヌプリ(1118m)、チセヌプリ(1134m)、目国内岳(1202m)、雷電山(1211m)	4	3	4		
22	野幌森林公園	すぐれた天然林	大規模平地林	野幌森林公園	3	2	2	札幌市 江別市 広島町	・道立自然公園野幌森林公園
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	西野幌	3	3	2		

		すぐれた森林性鳥類繁殖地	アカショウビン、アカゲラ、エゾライチヨウ等	野幌森林公園	3	2	2		・野幌鳥獣保護区（森）
		アオサギ集団繁殖地	—	北の里	4	3	2		
23	登別周辺	すぐれた天然林	登別原始林、オロフレダケカンバ林等	倶多楽湖周辺	3	2	2	大滝村 登別市 白老町 壮瞥町	・支笏洞爺国立公園 ・倶多楽湖鳥獣保護区（森） ・登別鳥獣保護区（森） ・天然記念物（国）「登別原始林」
		分布上重要な植物地	登別硫気孔植生	登別地獄谷、大湯沼周辺	3	1	2		
		高山植生	ハイマツ・コケモモ群落	ホロホロ山周辺	4	1	2		
		湿原	高層湿原	ホロホロ山山頂周辺	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	倶多楽湖周辺	3	3	2		
		ヒメマスのいる湖沼	—	倶多楽湖	4	3	3		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	—	登別地獄谷	1	1	2		
		すぐれた天然湖沼	—	倶多楽湖	3	3	3		
		全道を代表する展望地	—	オロフレ峠	3	3	4		
		地域を代表する山岳	—	ホロホロ山（1322m）	4	3	4		
		良好な砂丘・砂浜	—	幌別海岸	4	3	3		
特異な地形・景観	溶結凝灰岩節理	登別海岸	4	3	3				
24	美々川流域	天然林	ミズナラーコナラ群落、ハンノキ等	美々川流域	4	3	3	苫小牧市 千歳市	
		湿原	低層湿原、コウホネ群落等	同 上	4	2	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行河川、湧水	同 上	3	2	2		
25	平木沼湖沼群	天然林	ミズナラ、コナラ等	平木沼、朝日沼周辺	4	3	3	苫小牧市 厚真町 早来町	
		水鳥類飛来地	ハクチョウ 等	平木沼、朝日沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	同 上	4	3	3		
26	北大苫小牧演習林	天然林	平地林、エゾイタヤ・シナノキ群落等	演習林内	4	3	3	苫小牧市	・北大苫小牧演習林鳥獣保護区（森）
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
		すぐれた森林性鳥類繁殖地	—	同 上	3	2	2		
27	穂別周辺	特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生、タカネヤハズハハコ、ホソバトウキ等	八幡	4	1	2	穂別町 厚真町	
		分布上重要な植物生育地	コナラー斉林	幌内（オニキシバツ川流域）	4	1	2		
		特異な地形・景観	岩礫地、溪谷	銀蝶の沢、福山溪谷	4	3	3		
28	ポロト沼周辺	天然林	ミズナラーエゾイタヤ群落等	ポロト沼周辺	4	3	3	白老町	・ポロト鳥獣保護区（森）
		湿原	中・高層湿原	ヨコスト	4	2	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチヨウ類	ポロト沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	同 上	4	3	3		

29	円山・藻岩山	原生林若しくはそれに近い森林	エゾイタヤーシナノキ群落等	円山・藻岩山	3	1	1	札幌市	・円山・藻岩鳥獣保護区(森) ・天然記念物(国)「藻岩原始林」 「円山原始林」
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		すぐれた森林性鳥類繁殖地	—	同上	3	2	2		
		特異な昆虫生息地	ジョウザンシジミ、オオムラサキ	同上	4	3	2		
		良好な展望地	—	藻岩山	4	3	4		
30	無意根山・喜茂別岳周辺	天然林	ダケカンバササ群落、下部針広混交林等	無意根山、喜茂別岳周辺	4	3	3	札幌市	・支笏洞爺国立公園 ・定山溪鳥獣保護区(森)
		高山植生	ハイマツーコケモモ群落	無意根山、喜茂別岳	4	1	2		
		湿原	高層湿原	無意根山大蛇ヶ原	4	1	2		
		全道を代表する展望地	—	中山峠	3	3	4		
		地域を代表する山岳	—	無意根山(1461m)、喜茂別岳(1177m)	4	3	4		
31	鶴川・沙流川河口	海岸植生	海岸草原	沙流川河口	4	2	3	鶴川町 門別町	
		水鳥類主要飛来地	シギ・チドリ類等	鶴川河口、沙流川河口	3	2	2		
		特異な地形・景観	干潟	同上	4	2	3		
32	勇払川流域	湿原	低層湿原	勇払川湿原	4	2	2	苫小牧市	・勇払川学術自然保護地区
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	勇払川流域	4	3	2		
		アオサギ集団繁殖地	—	同上	4	3	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行河川	同上	4	3	3		
33	余市岳・白井岳・天狗岳周辺	天然林	エゾマツーダケカンバ群落、下部針広混交林等	余市岳、白井岳、朝里岳、天狗岳周辺	4	3	3	札幌市 小樽市 赤井川村	・余市岳自然景観保護地区 ・定山溪天狗自然景観保護地区
		高山植生	ハイマツーコケモモ群落、雪田草原	同上	4	1	2		
		地域を代表する山岳	—	余市岳(1488m)天狗岳(1145m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	岩峰	天狗岳	4	3	3		
		良好な展望地	—	朝里峠	4	3	3		
34	羊蹄山	日本を代表する高山植生	ハイマツーコケモモ群落、お花畑等	羊蹄山周辺	2	1	1	倶知安町 ニセコ町 真狩村 喜茂別町 京極町	・支笏洞爺国立公園 ・半月湖鳥獣保護区(森) ・天然記念物(国)「後方羊蹄山の高山植物帯」
		すぐれた天然林	エゾマツーダケカンバ群落、エゾイタヤーシナノキ群落等	羊蹄山麓	3	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	コニーデ式火山、植生の垂直分布	羊蹄山	2	2	2		
		地域を代表する山岳	—	羊蹄山(1893m)	4	3	4		
		良好な天然湖沼	—	半月湖	4	3	2		
		特異な地形・景観	湧水、風穴	羊蹄山麓	4	3	3		
35	雷電海岸	海岸植生	海岸断崖植生	雷電海岸	4	2	2		

		大規模海蝕崖	—	同 上	2	3	3	岩内町 蘭越町	・ニセコ積丹 小樽海岸国定 公園
36	鷲別岳・ 稀布岳	天然林	ダケカンバーササ群 落、 下部針広混交林等	鷲別岳・稀布岳周辺	4	3	3	室蘭市 登別市 伊達市	・鷲別岳学術 自然保護地区 ・稀布岳自然 景観保護地区
		特殊鳥類繁 殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
		地域を代表 する山岳	—	鷲別岳 (911m)、稀布岳 (702m)	4	3	4		

[Ⅲ] 大雪山・日勝圏域

大雪山系・日高山脈を含む本圏域 (2,133,264ha 全道比 27.1%) は、5 圏域でもっとも広い地域である。

全般的にみて内陸型気候に支配され、寒暖の差は大きい。2,000メートル級の山岳が南北に貫き、わが国有数の規模と資質を誇る原生林が残存し、本道の代表的河川である石狩川、十勝川の流域となっている。また、十勝平野、上川盆地等の平野の発達もみられる。

天然湖沼は、十勝平野の海岸部と大雪山の高山帯に比較的多い。

保全地域は、原生自然環境保全地域が1か所 (十勝川源流部 1,035ha) ある。

自然公園は、国立、国定、道立自然公園ともに各1か所ずつ (道立自然公園は道央圏域とまたがる)、合わせて3か所、350,048haが指定されている。環境緑地保護地区等は31か所、362haで、面積的には5圏域中もっとも小さい。

以上の合計面積は351,445haで圏域比16.5%であり、全道比11.4%をはるかに上回っている。

鳥獣保護区は81か所、63,396haで、圏域比3.0%は全道比4.5%を下回っている。

すぐれた自然の要素についてしてみると、<植物>では、自然度が極めて高い「日本を代表する高山植生」や「大規模原生林」、「分布上重要な植物生育地」、「特異な基岩に基づく植生」等が各地で見られ、<動物>では、ナキウサギ、ギンザンマシコ、シマフクロウ等を含む「全国的レベルで重要な生物とその環境」が多い。

また、<地形・地質>では、層雲峡をはじめとする「日本を代表する特異な地形」に特徴が認められる。



表-10 「すぐれた自然地域」一覧表 (大雪山・日勝圏域)

No	すぐれた自然地域	すぐれた自然の要素		主要な位置	保全水準			市町村名	備考
		要素	内容		資	保	利		
1	アポイ岳周辺	日本を代表する高山植生	高山低木群落、ハイマツ・コケモモ群落等	アポイ岳、幌満岳、ピンネシリ	2	2	1	様似町	・日高山脈襟裳国定公園 ・幌満鳥獣保護区(森) ・アポイ岳鳥獣保護区
		特異な基岩に基づく植生	アポイカンバ群落、ミヤマハンモドキ群落等	同 上	2	1	1		

		分布上重要な植物生育地	キタゴヨウ自生地	幌満岳西斜面	3	1	2		(森) ・特別天然記念物(国) 「アポイ岳高山植物群落」 ・天然記念物(国) 「幌満ゴヨウマツ自生地」
		天然林	アカエゾマツ、トドマツ群落等	アポイ岳周辺	4	3	2		
		ナキウサギ繁殖地	—	アポイ岳	3	2	2		
		特異な昆虫生息地	ヒメチャマダラセセリ等	アポイ岳周辺	3	1	1		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	アポイ岳、幌満岳周辺	3	3	2		
		海蝕崖	—	冬島海岸	4	3	3		
2	嵐山	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	嵐山	4	3	3	旭川市 鷹栖町	・嵐山鳥獣保護区(森)
		特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生、ホソバコウゾリナ、アポイタチツボスミレ等	半面山～近文山の稜線部	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	嵐山	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ヒメギフチョウ等	近文山周辺	4	3	2		
3	岩内仙峡	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	岩内仙峡	4	3	3	帯広市	・岩内鳥獣保護区(森) ・岩内仙峡自然景観保護地区
		特異な地形・景観	渓谷、穿入蛇行河川	同上	4	3	3		
4	岩松ダム・十勝ダム	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落、下部針広混交林等	岩松ダム湖、十勝ダム湖周辺	4	3	3	新得町	・大雪山国立公園
		全国的レベルで重要な生物とその環境	シマフクロウ繁殖地	同上	2	1	1		
		すぐれた人工湖	—	岩松ダム湖、十勝ダム湖	4	4	3		
5	浮島湿原	すぐれた湿原	高層湿原、アカエゾマツ群落、ミカツキグサーホロムイソグ群落	浮島湿原	3	1	2	上川町 滝上町	・浮島鳥獣保護区(森) ・滝奥鳥獣保護区(森)
		天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	浮島湿原周辺	4	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		良好な天然湖沼	—	浮島湿原	4	3	2		
6	襟裳	すぐれた海岸植生	海岸草原、海岸断崖植生等	黄金道路、襟裳岬周辺	3	2	2	えりも町 広尾町	・日高山脈襟裳国定公園 ・豊似湖鳥獣保護区(森)
		分布上重要な植物生育地	ヒダカミツバツツジ	えりも岬周辺	3	1	2		
		天然林	ミズナラーカシワ林、トドマツ林等	百人浜、ビタタヌンケ周辺	4	3	3		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ゼニガタアザラシ	襟裳岬先端の岩礁部	2	1	2		
		水鳥類主要飛来地	渡り中継地	襟裳岬周辺	3	2	2		
		ナキウサギ繁殖地	—	豊似湖周辺	3	2	2		
		大規模海蝕崖	—	広尾～音調津～境浜～目黒～美島	2	3	3		
		特異な地形・景観	日高造山運動の南端	襟裳岬周辺	3	3	3		
		全道を代表する展望地	—	襟裳岬	3	3	4		

		良好な天然湖沼	—	豊似湖	4	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	百人浜	4	3	3		
7	エンルム岬周辺	海岸植生	海岸草原	幌別川河口	4	2	2	様似町 浦河町	
		分布上重要な植物生育地	シロバナイヌナズナ、エゾハナシノブ、エゾムラサキ等	エンルム岬	4	1	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	様似川河口	4	3	2		
		海鳥類繁殖地	ウミウ、オオセグロカモメ等	親子岩	4	3	2		
		特異な地形・景観	陸けい砂州	エンルム岬	4	3	3		
		良好な展望地	—	同上	4	3	3		
8	かなやま湖	イトウのすむ湖沼	—	かなやま湖	3	2	3	南富良野町	・かなやま湖鳥獣保護区(森)
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	同上	4	3	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	かなやま湖周辺	4	3	3		
		アオサギ集団繁殖地	—	同上	4	3	2		
		すぐれた人工湖	—	かなやま湖	4	4	4		
9	神居古潭・神居山	天然林	下部針広混交林等	神居古潭、神居山周辺	4	3	3	旭川市	・神居古潭鳥獣保護区(森)
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
		特異な昆虫生息地	ヒメギフチョウ等	同上	4	3	2		
		特異な地形・景観	甌穴群、溪谷、岩壁	神居古潭	3	2	2		
10	狩勝峠周辺	天然林	ダケカンバーササ群落、エゾマツトドマツ群落等	狩勝峠周辺	4	3	3	新得町 南富良野町	
		特異な昆虫生息地	アイヌキンオサムシ、オオルリオサムシ、ヒメギフチョウ等	同上	4	3	2		
		全道を代表する展望地	—	狩勝峠	3	3	4		
11	札内川流域周辺	分布上重要な植物生育地	ケショウヤナギ	大正町元大正地区	2	1	1	帯広市	・天然記念物(道)「札内川流域化粧柳自生地」「大正のカシワ林」「帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主」
		天然林	カシワ林	大正町加賀地区	4	3	3		
		特異な地形・景観	十勝坊主	帯広畜大構内	4	3	3		
12	然別湖周辺	すぐれた天然林	エゾマツトドマツ群落等	然別湖周辺	3	3	3	上士幌町 士幌町 鹿追町	・大雪山国立公園 ・然別鳥獣保護区(森) ・瓜幕鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道)「然別湖のオシロコマ生息地」
		すぐれた高山植生	コマクサ群落等	東ヌプカウシ山	3	1	1		
		分布上重要な植物生育地	岩礫性アカエゾマツ林、エゾゴゼンタチバナ、イソツツジ、テシオコザクラ、エゾヒメクラマゴケ等	東ヌプカウシ山、西ヌプカウシ山	4	1	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ナキウサギ、シマフクロウ	東ヌプカウシ山周辺、然別湖周辺	2	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	然別湖周辺	3	3	2		
		オシロコマ(湖沼)	—	然別湖	3	3	2		

		性)の生息地											
		特異な昆虫生息地	カラフトルリシジミ	東ヌプカウシ山周辺	3	1	1						
		すぐれた天然湖沼	—	然別湖	3	3	3						
		すぐれた天然湖沼	—	東雲湖、駒止湖	3	2	2						
		全道を代表する展望地	—	扇ヶ原	3	3	4						
		地域を代表する山岳	—	東ヌプカウシ山(1252m)、ヌプカウシ山(1212m)	4	3	4						
13	春別川上流	原生林若しくはそれに近い森林	エゾマツ-ダケカンバ群落、エゾマツ-トドマツ群落、エゾイタヤ-シナノキ群落等	春別川上流	3	2	2	静内町				・春別鳥獣保護区(森)	
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2						
14	大樹・上更別	分布上重要な植物生育地	ヤチカンバ林	上更別	2	1	1	大樹町 更別村				・天然記念物(道) 「更別湿原のヤチカンバ」	
		天然林	カシワ林	大樹町市街	4	3	3						
15	大雪山(石狩連峰)	原生林若しくはそれに近い森林	エゾマツ-ダケカンバ群落、エゾマツ-トドマツ群落	石狩連峰亜高山帯一帯	3	2	2	上川町 新得町 上士幌町 鹿追町				・大雪山国立公園 ・糠平湖鳥獣保護区(渡) ・糠平鳥獣保護区(森)	
		すぐれた高山植生	ハイマツ-コケモモ群落、雪田草原、コマクサーイワツメクサクラス等	石狩連峰高山帯一帯	3	1	1						
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ナキウサギ等	同上	2	1	2						
		全国的にも類のない特有の昆虫類とその環境	ウスバキチョウ、アサヒヒョウモン等	石狩連峰高山帯一帯	2	1	1						
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	石狩連峰亜高山帯一帯	3	3	2						
		全道を代表する展望地	—	十勝三股	3	3	3						
		地域を代表する山岳	—	石狩岳(1966m)、ニベソツ山(2013m)、三国山(1541m)、ユニ石狩岳(1980m)	4	3	4						
		すぐれた人工湖	—	糠平湖	4	4	4						
16	大雪山(大雪山塊)	大規模な原生林	エゾマツ-ダケカンバ群落、ダケカンバ-ササ群落、エゾマツ-トドマツ群落等	十勝川源流部、大雪山原生林	2	1	1	上川町 東川町 美瑛町 新得町				・大雪山国立公園 ・十勝川源流部原生自然環境保全地域 ・勇駒別鳥獣保護区(森) ・層雲峡鳥獣保護区(森) ・トムラウシ鳥獣保護区(森) ・大雪原生林鳥獣保護区(森) ・特別天然記念物(国) 「大雪山」 ・名勝(道) 「羽衣の滝」	
		日本を代表する高山植生	ハイマツ-コケモモ群落、高山ハイデ及び風衝草原、雪田草原、コマクサーイワツメクサクラス等	大雪山高山帯一帯	2	1	1						
		日本を代表する湿原	高層湿原	沼ノ原、沼ノ平	2	1	1						
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ギンザンマシコ、ナキウサギ等	大雪山高山帯一帯	2	1	2						
		全国的にも類のない特有の昆虫類とその環境	ウスバキチョウ、アサヒヒョウモン等	同上	2	1	1						

		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	大雪山亜高山帯一帯	3	3	2		
		全国的レベルで重要な火山現象とその地形	—	旭岳	2	2	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	溶結凝灰岩柱状節理、渓谷、滝	層雲峡、天人峡、羽衣の滝	2	2	2		
		日本を代表する寒冷地形	構造土	高根ヶ原、トムラウシ山	2	1	1		
		特異な地形・景観	渓谷	クワウンナイ川	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	旭岳 (2290m)、 鎮岳 (2244m)、 雲岳 (2229m)、 トムラウシ山 (2141m)	4	3	4		
		良好な天然湖沼	—	北沼、ヒサゴ沼、硫黄沼	4	3	2		
		すぐれた人工湖	—	大雪湖	4	4	4		
17	大雪山山岳連峰 (十勝岳)	大規模な原生林	エゾマツトドマツ群落、アカエゾマツ群落、エゾマツ-ダケカンバ群落等	原始ヶ原	2	1	1		
		日本を代表する高山植生	高山低木群落、ハイマツ-コケモモ群落、コメバツガザクラ-ミネズオウ群落、コマクサーイワツメクサクラス等	十勝岳高山帯一帯	2	1	1		
		日本を代表する湿原	高層湿原、ツルコケモモ-ミズゴケクラス	原始ヶ原	2	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ナキウサギ、ギンザンマシコ等	十勝岳高山帯一帯	2	1	2		
		全国的レベルで重要な昆虫類とその環境	ウスバキチョウ、アサヒヒョウモン等	同 上	2	1	1	美瑛町 上富良野町 富良野市 南富良野町 新得町	・大雪山国立公園 ・白金鳥獣保護区 (森)
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	十勝岳亜高山帯一帯	3	3	2		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	—	十勝岳周辺	1	1	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	溶岩流	同 上	2	2	2		
		地域を代表する山岳	—	十勝岳 (2077m)、 オプタテシケ山 (2013m)、 美瑛岳 (2052m)、 上ホロカメットク山 (1920m)	4	3	4		
18	東大演習林	すぐれた天然林	トドマツ、エゾマツ、ミズナラ、ヤチダモ等の下部針広混交林	演習林内	3	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	2	2	富良野市	・富良野芦別道立自然公園 (一部) ・東京大学附属北海道演習林鳥獣保護区 (大)
		すぐれた森林性鳥類繁殖地	コノハズク、アカショウビン、クロジ、チゴハヤブサ等	同 上	3	2	2		
		良好な展望地	—	樹海峠	4	3	3		
19	十勝海岸	すぐれた海岸植生	カシワ林、海岸草原、ガンコウラン等	十勝海岸	3	2	2	浦幌町 豊頃町	・湧洞鳥獣保護区 (森)

		湿原	低層湿原	キモントウ沼周辺	4	2	2	大樹町 広尾町	<ul style="list-style-type: none"> ・大津鳥獣保護区(森) ・ホロカヤントウ鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道) 「大津海岸トイトヰスキ浜野生植物群落」 「大津海岸長節湖畔野生植物群落」
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	十勝川河口、湧洞沼、長節沼、生花苗沼、キモントウ沼、ホロカヤントウ沼周辺	2	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	生花苗沼、キモントウ沼、湧洞沼	2	1	1		
		特殊鳥類繁殖地	オジロワシ	湧洞沼周辺	2	1	1		
		アオサギ集団繁殖地	—	稲穂	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	湧洞沼、長節沼、生花苗沼、キモントウ沼、ホロカヤントウ沼	3	3	3		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	十勝海岸	3	3	3		
20	富川・富岡	天然林	ミズナラほか高齢大径広葉樹等	浦幌町富川南部、池田町富岡	4	3	3	浦幌町 池田町	
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2		
21	新冠川流域	特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生	新冠湖周辺	4	1	2	新冠町 静内町	<ul style="list-style-type: none"> ・新冠鳥獣保護区(森) ・奥新冠鳥獣保護区(森)(一部)
		分布上重要な植物生育地	アイヌミヤコザサ	新冠笹山草原	4	2	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	岩清水ダム周辺	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ヒメギフチョウ等	同上	4	3	2		
		すぐれた人工湖	—	新冠湖	4	4	3		
特異な地形・景観	穿入蛇行	新冠川上流	4	3	3				
22	ニニウ溪谷	天然林	エゾイタヤシナノキ群落等	ニニウ溪谷周辺	4	3	3	占冠町	<ul style="list-style-type: none"> ・占冠鳥獣保護区(森) ・ニニウ鳥獣保護区(森)
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
		特異な地形・景観	溪谷	ニニウ溪谷	4	3	3		
23	判官館周辺	水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	静内川河口	4	3	2	新冠町 静内町	<ul style="list-style-type: none"> ・判官館鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道) 「新冠泥火山」
		森林性鳥類繁殖地	—	判官館	4	3	3		
		特異な地形・景観	新冠泥火山	高江	4	3	3		
		良好な展望地	—	判官館	4	3	3		
24	日高山脈	大規模な原生林	エゾマツーダケカンバ群落、ダケカンバーササ群落、ミヤマハンノキーダケカンバ群落、エゾイタヤシナノキ群落等	沙流川源流部、ペンケヌシ川源流部	2	1	1	日高町 平取町 新冠町 静内町 浦河町 様似町 清水町 芽室町 帯広市 中札内村 大樹町 広尾町	<ul style="list-style-type: none"> ・日高山脈襟裳国定公園 ・日勝鳥獣保護区(森) ・天然記念物(国) 「沙流川源流原始林」
		日本を代表する高山植生	ハイマツーコケモモ群落、カール地形の湿性雪田草原等	日高山脈高山帯	2	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ナキウサギ、シマフクロウ、ギンザンマシコ等	幌尻岳、札内岳、戸鳶別岳、北戸鳶別岳	2	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	日高山脈	3	3	2		

		特異な昆虫生息地	カラフトトリシジミ、ダイセツタカネヒカゲ	幌尻岳周辺高山帯	3	1	1		
		日本を代表する構造山地	—	日高山脈	2	3	3		
		日本を代表する寒冷地形	カール地形	日高山脈高山帯	2	2	2		
		特異な地形・景観	溪谷	歴舟川、中ノ川、ヌビナイ川	3	2	2		
		全道を代表する展望地	—	日勝峠	3	3	3		
		地域を代表する山岳	—	幌尻岳 (2052m)、カムイエクウチカウシ山 (1979m)、戸蔦別岳 (1960m)、札内岳 (1896m)、ペテガリ岳 (1736m)	4	3	4		
25	平山周辺	すぐれた高山植生	ハイマツーコケモモ群落、イワウメーミネズオウ群落等	平山周辺	3	1	1	白滝村	・ひらやま鳥獣保護区 (森)
		森林性鳥類繁殖地	—	同 上	4	3	3		
		地域を代表する山岳	—	平山 (1771m)	4	3	4		
26	伏見仙峡	分布上重要な植物生育地	オクエゾサイシンの東限	伏見仙峡	3	1	2	芽室町	・伏見鳥獣保護区 (森)
		森林性鳥類繁殖地	—	同 上	4	3	3		
		特異な地形・景観	溪谷	同 上	4	3	3		
27	蓬来山	海岸植生	海岸草原	三石町～浦河町の海岸部	4	2	2	三石町 浦河町	
		分布上重要な植物生育地	オオサクラソウ、エゾノハナシノブ、オオエゾデンダ等	蓬来山	4	1	2		
		特異な地形・景観	岩峰	同 上	4	3	3		
28	糠南川周辺	天然林	下部針広混交林等	糠南川周辺	4	3	2	足寄町	
		全国的レベルで重要な生物とその環境	—	同 上	2	1	1		
29	メナシベツ川上流	水鳥類飛来地	カモ類等	高見ダム湖	4	3	2	静内町	
		すぐれた人工湖	—	同 上	4	4	3		
		特異な地形・景観	溪谷	メナシベツ川上流	4	3	3		
30	夕張岳・芦別岳周辺	日本を代表する高山植生	ハイマツーコケモモ群落、高山ハイデ及び風衝草原等	夕張岳、屏風岳、芦別岳、鉢盛山周辺	2	1	1	富良野市 南富良野町 芦別市 三笠市 夕張市	・富良野芦別道立自然公園 ・第二シユーパロ鳥獣保護区 (森) ・山部鳥獣保護区 (森)
		特異な基岩に基づく植生	石灰岩植生、リシリビャクシン、カトウハコベ、ヒロハヘビノボラズ、エゾオオケマン、ヒメナットウダイ、ミヤマハンモドキ等	岨山	2	1	1		
		特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生、エゾクモマグサ、タカネエゾムギ、ナンブイヌナズナ、ハゴロモグサ、ミヤマハンモドキ、ホソバウルップソウ、ユキバヒゴダイーユウバリソウ群落等	夕張岳	2	1	1		

		分布上重要な植物生育地	ユウバリソウ、ユウバリコザクラ等	同上	2	1	1		
		特異な基岩に基づく植生	石灰岩植生、イチョウシダ、ソラチコザクラ、オオヒラウスユキソウ、ハゴロモグサ、トチナイソウ等	富良野西岳	3	1	1		
		天然林	ダケカンバーササ群落、エゾマツ-ダケカンバ群落、エゾマツ-トドマツ群落等	夕張岳、芦別岳高山帯周辺一帯	4	3	3		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	ナキウサギ、シマフクロウ等	夕張岳山頂、尻岸馬内川	2	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	夕張岳、芦別岳周辺	3	3	2		
		特異な地形・景観	岩峰	夕張岳、芦別岳、岨山	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	夕張岳 (1668m)、別岳 (1727m)、良野西岳 (1331m)	4	3	4		
		すぐれた人工湖	—	桂沢湖、野花南湖、シューパロ湖	4	4	4		
31	留真	天然林	エゾイタヤ-シナノキ群落等	留真	4	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2	浦幌町	
		特異な地形・景観	溪谷	留真川	4	3	3		

[IV] 道東圏域

釧路湿原・霧多布湿原をはじめとする大小多数の湿原と、その中を貫流する自然河川によって特徴づけられる本圏域 (1,909,964ha 全道比 24.3%) は、最も本道らしい自然環境を有し、最大級の水鳥飛来地となっている。

特に、濤沸湖、風蓮湖には、春秋最大数万のカモ、ハクチョウ類が集結する。このほか、タンチョウ、シマフクロウ、オジロワシ等稀少な大型鳥類の繁殖地でもある。

また、釧路湿原はわが国唯一のキタサンショウウオの生息地として貴重な湿原である。

保全地域は、原生自然環境保全地域が 1 か所 (遠音別岳 1,895ha)、道自然環境保全地域が 4 か所、709ha が指定されている。

自然公園は国立公園 3 か所、国定公園 1 か所、道立自然公園が 4 か所 (うち 1 か所は道北圏域にまたがる) 指定されており、その面積は 235,504ha である。また、環境緑地保護地区等は 20 か所、1,283ha が指定されている。

以上の合計面積は 239,391ha で、圏域比 12.5% は全道比 11.4% をやや上回っている。

鳥獣保護区は 79 か所、119,721ha で、圏域比 6.3% は全道比 4.5% をはるかに上回っている。

すぐれた自然の要素についてみると、<植物>では、「日本を代表する湿原」をはじめとして、「分布上重要な植物生育地」や「すぐれた海岸植生」、「すぐれた自然草原」等が特徴的であり、<動物>では、タンチョウ、オジロワシ、シマフクロウ等を含む「全国的レベルで重要な生物とその環境」が本圏域にほぼ集中しているとともに、「水鳥類大規模飛来地」等も多い。

また、<地形・地質>では、雌阿寒岳に代表される「国際的レベルで重要な火山現象とその地形」に特色があり、摩周湖、阿寒湖等の成因を異にする天然湖沼も各地に分布している。



表-11 「すぐれた自然地域」一覧表 (道東圏域)

No	すぐれた自然地域	すぐれた自然の要素		主要な位置	保全水準			市町村名	備考
		要素	内容		資	保	利		
1	阿寒湖周辺	大規模な原生林	アカエゾマツ群落、エゾマツ-ダケカンバ群落等	雄阿寒岳、ペンケトー、パンケトー周辺	2	1	1	阿寒町 足寄町	<ul style="list-style-type: none"> ・阿寒国立公園 ・阿寒湖鳥獣保護区(森) ・ペンケトー鳥獣保護区(森) ・雌阿寒鳥獣保護区(森) ・特別天然記念物(国)「阿寒湖のマリモ」
		日本を代表する高山植生	高山ハイデ及び風衝草原、ハイマツ-コケモモ群落	雌阿寒岳、雄阿寒岳	2	1	1		
		分布上重要な植物生育地	マリモ	阿寒湖	2	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	シマフクロウ、クマガエラ主要繁殖地等	阿寒湖周辺	2	1	2		
		ヒメマスのいる湖沼	—	阿寒湖	4	3	3		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	—	雌阿寒岳、阿寒富士	1	1	2		
		日本を代表する天然湖沼	—	阿寒湖	2	3	3		
		すぐれた天然湖沼	—	パンケトー、ペンケトー、オンネトー	3	3	3		
		地域を代表する山岳	—	雌阿寒岳(1499m)、雄阿寒岳(1371m)	4	3	4		
		良好な展望地	—	双湖台	4	3	3		
2	厚岸海岸	すぐれた天然林	下部針広混交林等	厚岸海岸周辺	3	3	3	厚岸町 浜中町	<ul style="list-style-type: none"> ・厚岸道立自然公園 ・厚岸鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道)「厚岸床潭沼の緋鮎生息地」
		海岸植生	海岸台地草原	厚岸町アイカッパ崎～浜中町アイヌ岬	4	2	2		
		ヒブナのいる湖沼	—	床潭沼	3	2	2		
		アオサギ集団繁殖地	—	アイカッパ崎周辺	4	3	2		
		中規模海蝕崖	—	厚岸町アイカッパ崎～浜中町アイヌ岬	3	3	3		
		良好な展望地	—	アイカッパ崎、あやめヶ原	4	3	3		
3	厚岸湖	分布上重要な植物生育地	アッケシソウ等	厚岸湖	3	1	2	厚岸町	<ul style="list-style-type: none"> ・厚岸道立自然公園 ・厚岸湖鳥獣保護区(渡) ・天然記念物(国)「厚岸湖牡蠣」
		天然林	エゾマツ-トドマツ群落等	厚岸湖周辺	4	3	3		
		全国的レベルで重要な	タンチョウ繁殖地	同上	2	1	1		

		生物とその環境								島の植物群落」
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	厚岸湖	3	2	2			
		すぐれた天然湖沼	—	同上	3	3	3			
4	斜里海岸	すぐれた海岸植生	カシワ林等	朱円・以久科地区周辺	3	2	2	斜里町	・以久科海岸道自然環境保全地域 ・斜里鳥獣保護区(森)	
		すぐれた自然草原	ハマニンニク・ハマナス群落、エゾスカシユリ等	同上	3	2	2			
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3			
		良好な砂丘・砂浜	—	同上	4	3	3			
5	網走湖・能取湖・能取半島周辺	すぐれた天然林	エゾマツ・トドマツ群落、エゾイタヤ・シナノキ群落、ハンノキ・ミズバショウ群落等	能取半島、網走湖南東部湖畔	3	2	2	網走市 女満別町	・網走国定公園 天都山麓環境緑地保護地区 ・呼人鳥獣保護区(森) ・能取湖鳥獣保護区(渡) ・女満別鳥獣保護区(繁) ・天然記念物(国) 「女満別湿生植物群落」 ・名勝(国) 「天都山」	
		すぐれた海岸植生	塩湿地植生	能取湖岸	3	1	2			
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	能取湖、網走湖	2	2	2			
		全国的レベルで重要な生物とその環境	オジロワシ等主要繁殖地	網走湖畔	2	1	1			
		アオサギ主要集団繁殖地	—	網走湖畔	3	2	2			
		海獣回遊地	アザラシ	網走海岸一帯	4	3	2			
		特異な昆虫生息地	オオイチモンジ、ヒメギフチョウ、ムカシトンボ	能取半島	4	3	2			
		すぐれた天然湖沼	—	能取湖、網走湖、リヤウシ湖	3	3	3			
		全道を代表する展望地	—	能取岬、天都山	3	3	4			
		海蝕崖	—	能取半島東岸部	4	3	3			
良好な砂丘・砂浜	—	能取岬西側～東浜	4	3	3					
6	植別川流域	特殊鳥類繁殖地	クマガラ	植別川流域	3	3	2	標津町 羅臼町		
		特異な地形・景観	溪谷	同上	4	3	3			
7	海別岳	すぐれた高山植生	ハイマツ・コケモモ群落等	海別岳高山帯	3	1	1	斜里町 羅臼町 標津町		
		天然林	ダケカンバ・ササ群落、エゾマツ・トドマツ群落等	海別岳周辺	4	3	3			
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	海別岳	3	3	2			
		地域を代表する山岳	—	海別岳(1419m)	4	3	4			
8	置戸山地	すぐれた天然林	アカエゾマツ林等	置戸山地	3	2	3	置戸町	・鹿の子沢鳥獣保護区(森)	
		ナキウサギ繁殖地	—	同上	3	2	2			
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2			
		特異な地形・景観	風穴	同上	4	3	3			

9	落石岬	日本を代表する湿原	高層湿原、アカエゾマツ林、イソツツジ、ワタスゲ、コケモモ等	落石岬周辺	2	1	1	根室市	<ul style="list-style-type: none"> ・落石岬道自然環境保全地域 ・天然記念物(国)「落石岬のサカイツツジ自生地」
		分布上重要な植物生育地	サカイツツジ、アカエゾマツ林等	同上	2	1	1		
		海獣回遊地	ゼニガタアザラシ、クラカケアザラシ、ラッコ等	落石岬	3	3	2		
		中規模海蝕崖	—	落石岬周辺	3	3	3		
		良好な展望地	—	落石岬	4	3	3		
10	尾幌	すぐれた天然林	トドマツ林、イチイ林等	尾幌	3	3	3	厚岸町	<ul style="list-style-type: none"> ・尾幌道自然環境保全地域 ・尾幌十条鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
11	温根沼・長節湖	すぐれた天然林	アカエゾマツ林等	温根沼、長節湖周辺	3	2	2	根室市	<ul style="list-style-type: none"> ・野付風蓮道立公園 ・温根沼鳥獣保護区(森) ・長節鳥獣保護区(森)
		湿原	低～高層湿原	温根沼周辺	4	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ、シマフクロウ繁殖地	同上	2	1	1		
		水鳥類主要飛来地	オオハクチョウ、シギ・チドリ類等	温根沼	3	2	2		
		すぐれた天然湖沼	—	温根沼、長節湖	3	3	3		
12	温根湯	分布上重要な植物生育地	エゾムラサキツツジ群落	温根湯	3	1	1	留辺蘂町	<ul style="list-style-type: none"> ・天然記念物(道)「温根湯エゾムラサキツツジ群落」
		特異な昆虫生息地	ジョウザンシジミ	同上	4	3	2		
		特異な地形・景観	風穴	同上	4	3	3		
13	兼金沼・西別川流域	湿原	中・高層湿原、ミズゴケ群落、イソツツジ等	兼金沼湿原	4	2	2	別海町	<ul style="list-style-type: none"> ・茨散沼鳥獣保護区(森)
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	兼金沼、兼金沼湿原	2	1	1		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	兼金沼、茨散沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	同上	4	3	3		
14	木禽岳	すぐれた天然林	アカエゾマツ群落、エゾマツトドマツ群落等	木禽岳周辺	3	3	3	津別町	<ul style="list-style-type: none"> ・阿寒国立公園 ・木禽岳鳥獣保護区(森)
		分布上重要な植物生育地	エゾクサイチゴ、チシマセンブリ、チシマヒョウタンボク、モイワシャジン	木禽岳山頂周辺	3	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	木禽岳周辺	3	3	2		
15	北見富士	天然林	エゾマツトドマツ群落、ダケカンバ群落等	北見富士、チトカニウシ山周辺	4	3	3	紋別市 滝上町 丸瀬布町 上川町	<ul style="list-style-type: none"> ・上立牛鳥獣保護区(森) ・上丸鳥獣保護区(森)
		高山植生	ハイマツコケモモ群落、高山低木群落等	北見富士、チトカニウシ山高山帯	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	北見富士、チトカニウシ山周辺	3	3	2		
		地域を代表する山岳	—	北見富士(1307m)、チトカニウシ山(1446m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	大規模な滝	白幽の滝	4	3	3		

16	霧多布湿原 周辺	日本を代表する湿原	低～高層湿原、ワタスゲ・イボミズゴケ群落、イソツツジ・チャミズゴケ群落等	霧多布湿原	2	1	1	浜中町	・厚岸道立自然公園 ・天然記念物(国) 「霧多布泥炭形成植物群落」
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ主要繁殖地	同上	2	1	1		
		海鳥類主要繁殖地	エトピリカ、オオセグロカモメ等	湯沸岬	3	2	2		
		中規模海蝕崖	—	ロウソク岩～琵琶瀬周辺、嶮暮島南部、霧多布トッカリ岬周辺	3	3	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行河川	霧多布湿原内	3	2	2		
		良好な砂丘・砂浜	—	浜中海岸	4	3	3		
		良好な展望地	—	琵琶瀬	4	3	4		
17	釧路湿原	日本を代表する湿原	低～高層湿原、チャミズゴケ、ツルコケモモ、ガンコウラン、クシロハナシノブ、キタヨシースゲ類群落、ハンノキ林等	釧路湿原	2	1	1	釧路市 釧路町 標茶町 鶴居村	・釧路湿原国立公園 ・クッチャロ太鳥獣保護区(特) ・塘路シラルトロ鳥獣保護区(渡) ・天然記念物(国) 「釧路湿原」
		国際的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ主要繁殖地	同上	1	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	キタサンショウウオ主要繁殖地	同上	2	1	1		
		全国的にも類のない特有の魚類とその環境	イトウ等	釧路川、雪裡川	2	2	2		
		全国的にも類のない特有の昆虫類とその環境	エゾカオジロトンボ、イジマルリボシヤンマ等	釧路湿原	2	1	1		
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	塘路湖、シラルトロ沼、達古武沼	3	2	2		
		アオサギ集団繁殖地	—	釧路湿原	4	3	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	自由蛇行河川	釧路川、雪裡川、幌呂川	2	2	2		
		すぐれた天然湖沼	—	塘路湖、シラルトロ沼、達古武沼	3	3	3		
18	屈斜路湖・ 摩周湖周辺	分布上重要な植物生育地	アトサヌプリ山麓ハイマツ植生、ハイマツ・イソツツジ群落、ミズスギ群落	アトサヌプリ山麓	2	1	1	弟子屈町 標茶町 中標津町 清里町 小清水町 東藻琴村 美幌町	・阿寒国立公園 ・屈斜路湖鳥獣保護区(渡) ・屈斜路鳥獣保護区(渡) ・天然記念物(国) 「和琴ミンミンゼミ発生地」
		すぐれた天然林	トドマツ・ミズナラ群落、イチイ群落、下部針広混交林等	摩周湖畔、屈斜路湖畔	3	2	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	屈斜路湖周辺	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ミンミンゼミ、カラフトルリシジミ	和琴、西別岳	3	1	1		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	屈斜路湖	4	3	2		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	—	硫黄山	1	1	2		

		国際的レベルで重要な天然湖沼	—	摩周湖	1	1	1		
		日本を代表する天然湖沼	—	屈斜路湖	2	3	3		
		全道を代表する展望地	—	美幌峠、摩周湖展望台	3	3	4		
		地域を代表する山岳	—	摩周岳（855m）、藻琴山（1000m）、硫黄山（336m）	4	3	4		
19	コイトイ・大楽毛海岸	湿原	低層温原、ハナタネツケバナ	コイトイ沼周辺	4	2	2	白糠町 釧路市	
		海岸植生	海岸草原、ハマナス	コイトイ・大楽毛海岸	4	3	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	コイトイ川流域周辺	2	1	1		
		良好な砂丘・砂浜	—	コイトイ・大楽毛海岸	4	3	3		
20	コムケ湖・シブノツナイ湖周辺	自然草原	海岸草原、ハマニンニク・ハマナス群落等	紋別海岸、コムケ湖・シブノツナイ湖岸	4	2	2	紋別市 湧別町	<ul style="list-style-type: none"> ・コムケ鳥獣保護区（渡） ・ヤソシ沼自然景観保護地区 ・コムケ沼自然景観保護地区 ・シブノツナイ沼自然景観保護地区
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	コムケ湖、シブノツナイ湖、ヤソシ沼	3	2	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ等	コムケ湖周辺	4	3	2		
		アオサギ集団繁殖地	—	コムケ湖	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	コムケ湖、シブノツナイ湖、ヤソシ沼	4	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	湧別町～紋別市の海岸部	4	3	3		
21	昆布森・尻羽岬周辺	すぐれた海岸植生	海岸草原、海岸断崖植生等	昆布森、尻羽岬	3	2	2	釧路町	<ul style="list-style-type: none"> ・厚岸道立自然公園 ・尾幌鳥獣保護区（森）
		天然林	エゾイタヤシナノキ群落等	昆布森、チョロバツ川流域	4	3	3		
		森林性鳥類繁殖地	—	尻羽岬周辺	4	3	3		
		海獣回遊地	ゼニガタアザラシ	尻羽岬	4	3	2		
		海鳥類繁殖地	ウミウ、カモメ類等	昆布森、尻羽岬	4	3	2		
		中規模海蝕崖	ハチの巣岩等	昆布森～尻羽岬	3	3	3		
		良好な展望地	—	尻羽岬	4	3	3		
22	サロマ湖	分布上重要な植物生育地	塩湿地植生、アッケシソウ群落	テイネイ	3	1	2	湧別町 佐呂間町 常呂町	<ul style="list-style-type: none"> ・網走国定公園 ・幌岩鳥獣保護区（森） ・栄浦鳥獣保護区（森） ・トエトコ鳥獣保護区（森） ・円山鳥獣保護区（森） ・キムアネツブ鳥獣保護区（森） ・牡蠣島鳥獣保護区（森） ・天然記念物（道）「佐呂間湖畔」
		すぐれた自然草原	—	サロマ湖海岸一帯	3	2	2		
		天然林	トドマツ林、エゾイタヤシナノキ群落等	サロマ湖周辺	4	3	3		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	サロマ湖	2	2	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	サロマ湖周辺	4	3	3		
		特異な昆虫生息地	オオイチモンジ、カラフトカネキマダラセリ	円山	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	サロマ湖	3	3	3		

		特異な地形・景観	砂州	サロマ湖海岸	3	2	2		鶴沼のアッケシソウ群落
		良好な展望地	—	幌岩山	4	3	3		
23	標津(伊茶仁)湿原周辺	天然林	ヤチダモーハンノキ林等	標津(伊茶仁)湿原周辺	4	3	3	標津町	・天然記念物(国) 「標津湿原」
		湿原	チャミズゴケ、イボミズゴケ、ガンコウラン、イソツツジ、ツルコケモモ等	同上	4	2	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
24	斜里岳	すぐれた天然林	ダケカンバーササ群落、ヤチカンバーミヤマハンノキ群落等	斜里岳周辺	3	3	3	斜里町 標津町 清里町	・斜里岳道立自然公園
		すぐれた高山植生	ハイマツ—コケモモ群落等	斜里岳高山帯	3	1	1		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	斜里岳周辺	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	カラフトルリシジミ	斜里岳	3	1	1		
		地域を代表する山岳	—	斜里岳(1545m)	4	3	4		
25	シュンクシタカラ湖	天然林	下部針広混交林、エゾマツ—トドマツ群落等	シュンクシタカラ湖周辺	4	3	3	阿寒町	・シュンクシタカラ鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		良好な天然湖沼	—	シュンクシタカラ湖	4	3	3		
		特異な地形・景観	溪谷、氷瀑	シュンクシタカラ川上流	4	3	3		
26	春別・雷床丹川流域	湿原	低層湿原、ヨシ、ハンノキ群落等	春別川・雷床丹川・床丹川流域	4	2	2	別海町	・春別床丹鳥獣保護区(渡)(一部)
		水鳥類飛来地	オオハクチョウ等	春別川河口	4	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	春別川河口海岸	4	3	3		
27	知床半島	大規模な原生林	エゾマツ—トドマツ群落、エゾマツ—ダケカンバ群落等	知床半島	2	1	1	斜里町 羅臼町	・知床国立公園 ・遠音別岳原生自然環境保全地域 ・知床鳥獣保護区(特) ・ウトロ崎学術自然保護地区 ・天然記念物(道) 「羅臼の間歇泉」 「オシュンコシュン粗粒玄武岩柱状節理」 「羅臼のひかりごけ」
		日本を代表する高山植生	ハイマツ—コケモモ群落、シレットコスミレ	羅臼岳、硫黄山、知床岳、遠音別岳高山帯	2	1	1		
		特異な海岸植生	海岸台地草原、トラノオシダ、エゾカワラナデシコ、シコタンハコベ等	知床半島	2	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	シマフクロウ、オジロワシ、クマゲラ主要繁殖地等	同上	2	1	1		
		海獣回遊地	ゴマフアザラシ、クラカケアザラシ等	知床岬～化石浜	3	3	2		
		海鳥類主要繁殖地	ウミウ、オオセグロカモメ等	知床半島西岸部	3	2	2		
		特異な昆虫生息地	カラフトルリシジミ	知床半島	3	1	1		
		国際的レベルで重要な火山現象とその地形	噴気孔、間欠泉等	硫黄山、羅臼	1	1	2		
		大規模海蝕崖	—	知床半島海岸部	2	3	2		
すぐれた天然湖沼	—	知床沼、羅臼湖、知床五湖	3	2	2				

		特異な地形・景観	大規模な滝、原始河川	オシンコシンの滝、カムイワッカの滝、テップンベツ川、ルシヤ川	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	羅白岳（1661m）、硫黄山（1563m）、知床岳（1255m）、遠音別岳（1331m）	4	3	4		
28	大黒島	すぐれた自然草原	海岸台地草原	大黒島	3	2	2	厚岸町	・厚岸道立自然公園 ・大黒島鳥獣保護区（繁） ・天然記念物（国） 「大黒島海鳥繁殖地」
		海獣繁殖地	ゼニガタアザラン	大黒島周辺	2	2	2		
		海鳥類大規模繁殖地	コシジロウミツバメ、ウミウ、ケイマフリ、エトピリカ、オオセグロカモメ等	大黒島	2	1	1		
		中規模海蝕崖	—	同上	3	3	2		
29	滝ノ上	天然林	ミズナラーエゾムラサキツツジ群落等	滝ノ上山周辺	4	3	3	滝上町	
		特異な地形・景観	渓谷	滝上渓谷	4	3	3		
30	タンネ沼・オンネ沼	湿原	低層湿原	タンネ沼、オンネ沼周辺	4	2	2	根室市	・根室丹根沼水源鳥獣保護区（渡）
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	同上	2	1	1		
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
		良好な天然湖沼	—	タンネ沼、オンネ沼、南部沼	4	3	3		
31	チミケップ湖	すぐれた天然林	エゾマツトドマツ群落等	チミケップ湖周辺	3	3	2	津別町	・チミケップ湖鳥獣保護区（森）
		分布上重要な植物生育地	クシロワチガイ、ミヤマハンショウヅル、オオサクラソウ等	同上	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	同上	3	3	2		
		すぐれた森林性鳥類繁殖地	—	チミケップ野鳥の森	3	2	2		
		特異な昆虫生息地	オオイチモンジ	チミケップ湖周辺	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	チミケップ湖	3	3	3		
32	天塩岳・ウエンシリ岳	すぐれた高山植生	ハイマツコケモモ群落、雪田草原等	天塩岳、ウエンシリ岳	3	1	1	滝上町 朝日町 西興部村 下川町	・天塩岳道立自然公園
		天然林	ダケカンバ林、下部針広混交林等	同上	4	3	3		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	天塩岳、ウエンシリ岳周辺	3	3	2		
		日本を代表する寒冷地形	氷のトンネル	ウエンシリ岳山麓	2	1	2		
		地域を代表する山岳	—	天塩岳（1558m）、ウエンシリ岳（1142m）	4	3	4		
33	濤沸湖・藻琴湖周辺	日本を代表する自然草原	ハマニンクーハマナス群落、ハナタネツケバナ	小清水海岸	2	2	2	網走市 小清水町 斜里町	・網走国定公園 ・濤沸湖鳥獣保護区（渡） ・止別鳥獣保護区（愛） ・名勝（道） 「小清水海岸」
		天然防風林	ミズナラ、イタヤカエデ、カシワ、センノキ等	北斗原野	4	3	2		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	濤沸湖、藻琴湖	2	2	2		
		全国的レベルで重要な	オジロワシ等主要繁殖地	濤沸湖周辺	2	1	1		

		生物とその環境							
		特異な昆虫生息地	カラフトキリギリス	小清水海岸	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	濤沸湖、藻琴湖	3	3	3		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	小清水海岸	3	2	2		
34	根室半島	海岸植生	海岸ミズナラ林、シコタンヨモギ、キヨシノウ、トモシリソウ	根室半島海岸部	4	2	2	根室市	
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	トーサムポロ沼周辺	2	1	1		
		特殊鳥類繁殖地	オジロワシ	ノッカマップ川流域	2	1	1		
		水鳥類主要飛来地	コケワタガモ、クロガモ等	根室半島海岸部	3	2	2		
		特殊鳥類飛来地	オオワシ	同 上	4	3	2		
		海獣回遊地	トド、アザラシ等	同 上	4	3	2		
		全道を代表する展望地	—	納沙布岬	3	3	4		
		良好な天然湖沼	—	トーサムポロ沼	4	3	3		
		海蝕崖	—	根室半島海岸部	4	3	3		
35	野付半島周辺	分布上重要な植物生育地	塩湿地植生等	野付半島、尾岱沼	3	1	2	標津町 別海町	<ul style="list-style-type: none"> ・野付風蓮道立自然公園 ・春別床丹鳥獣保護区(渡)
		すぐれた自然草原	ハマニンニクーハマナス群落、センダイハギ群落等	同 上	3	2	2		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	尾 岱 沼	2	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	アカアシシギ集団繁殖地	野付半島	2	1	1		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ、オジロワシ繁殖地	野付半島基部周辺	2	1	1		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	野付半島、尾岱沼	4	3	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	大規模な砂嘴等	野付半島	2	1	1		
		特異な地形・景観	トドワラ、ナラワラ	同 上	3	2	2		
36	馬主来沼	湿原	低層湿原	馬主来沼周辺	4	2	2	白糠町 音別町	<ul style="list-style-type: none"> ・馬主来鳥獣保護区(森)
		自然草原	海岸草原	馬主来～音別の海岸部	4	2	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	馬主来沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	同 上	4	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	馬主来～音別の海岸部	4	3	3		
37	火散布沼・藻散布沼	分布上重要な植物生育地	シロエゾマツ林、イチイ林等	茶内周辺	3	1	2	浜中町	<ul style="list-style-type: none"> ・厚岸道立自然公園 ・藻散布沼鳥獣保護区(渡)
		海岸植生	塩湿地植生	火散布沼、藻散布沼	4	2	2		
		全国的レベルで重要な	タンチョウ繁殖地	火散布沼、藻散布沼周辺	2	1	1		

		生物とその環境							
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	火散布沼、藻散布沼	3	2	2		
		良好な天然湖沼	—	同上	4	3	3		
38	風蓮湖周辺	分布上重要な植物生育地	海岸砂丘上のアカエゾマツ林、塩湿地植生	春国岱	2	1	1	根室市 別海町	・野付風蓮道立自然公園 ・風蓮湖鳥獣保護区(渡)
		すぐれた天然林	アカエゾマツ林、トドマツ林等	風蓮湖、春国岱	3	1	2		
		すぐれた海岸植生	海岸草原、コケモモ、ガンコウラン群落等	走古丹	3	2	2		
		湿原	低～高層湿原	風連川下流域	4	2	2		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	風蓮湖、春国岱	2	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ・オジロワシ繁殖地等	同上	2	1	1		
		全国的にも類のない特有の魚類とその環境	イトウ等	風蓮川	2	2	2		
		特異な昆虫生息地	カラフトトリシジミ、ウスバカゲロウのコロニー	春国岱	3	1	1		
		特殊鳥類飛来地	オオワシ等	風蓮湖、春国岱	4	3	2		
		海獣回遊地	トド、ゴマフアザラシ等	海岸部一帯	4	3	2		
		日本を代表する天然湖沼	—	風蓮湖	2	3	3		
特異な地形・景観	砂州	春国岱、走古丹	3	2	2				
39	別寒辺牛湿原	すぐれた湿原	低層湿原、クシロハナシノブ等	別寒辺牛湿原	3	1	1	厚岸町 標茶町	
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ主要繁殖地	同上	2	1	1		
		全国的にも類のない特有の魚類とその環境	イトウ等	別寒辺牛川	2	2	2		
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	別寒辺牛湿原	3	2	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行河川	別寒辺牛川	3	2	2		
40	別当賀川下流域	天然林	ハンノキ、ハルニレ、ヤチダモ林	別当賀川下流域	4	3	3	根室市	
		湿原	低層湿原	同上	4	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	シマフクロウ、クマガエラ主要繁殖地等	同上	2	1	1		
41	ホロニタイ湿原	天然林	ミズナラ、ダケカンバ	別当賀	4	3	3	根室市	
		湿原	低層湿原	ホロニタイ湿原	4	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	タンチョウ繁殖地	同上	2	1	1		

42	奔幌戸・ 恵茶人	海岸植生	ミヤコザサ草原、海岸 断崖植生等	後静～貫人	4	2	2	浜中町	・貫人鳥獣保 護区（森）
		全国的レベ ルで重要な 生物とその 環境	タンチョウ繁殖地	幌戸沼、恵茶人沼周辺	2	1	1		
		水鳥類飛来 地	ガン・カモ類等	幌戸沼	4	3	2		
		良好な天然 湖沼	—	幌戸沼、恵茶人沼	4	3	3		
43	三津浦海 岸	分布上重要 な植物生育 地	ハマハコベ、オオミミ ナグサ、ネムロシオガ マ、マルバキンレイカ 等	三津浦海岸	4	1	2	釧路市 路町	
		海鳥類繁殖 地	ウミウ、カモメ類等	同 上	4	3	2		
		海蝕崖	—	同 上	4	3	3		
44	武佐岳・ サマツケ ヌプリ山 周辺	高山植生	ハイマツ・コケモモ群 落等	武佐岳、サマツケヌ プリ山	4	1	2	標津町 中標津町 清里町	
		特殊鳥類繁 殖地	クマゲラ	同 上	3	3	2		
		地域を代表 する山岳	—	武佐岳（1006m）、サ マツケヌプリ山（1063m）	4	3	4		
45	武利岳・ 武華岳	すぐれた高 山植生	ハイマツ・コケモモ群 落、コマクサーイワツ メクサクラス等	武利岳、武華岳	3	1	1	丸瀬布町 白滝村 留辺蘂町	
		天然林	エゾマツ・ダケカンバ 群落、ダケカンバーサ サ群落等	武利岳、武華岳周辺	4	3	3		
		ナキウサギ 繁殖地	—	武利岳	3	2	2		
46	紋別沢木 海岸周辺	海岸植生	ハマニシニクーハマナ ス群落等、原生花園	紋別沢木海岸（ウエン ヒラリ岬～日の出岬）	4	2	2	紋別市 興部町 雄武町	
		水鳥類主要 飛来地	ガン・カモ類等	同 上	3	2	2		
		良好な天然 湖沼	—	オムシャリ沼、大西沼	4	3	3		
		良好な砂 丘・砂浜	—	紋別沢木海岸	4	3	3		
		良好な展望 地	—	沙留岬、日の出岬	4	3	4		
47	ユルリ 島・モユ ルリ島	すぐれた自 然草原	海岸台地草原、ツリガ ネニンジン、チシマフ ウロ、ハクサンチド リ、ワタスゲ、イワノ ガリヤス等	ユルリ島、モユルリ島	3	2	2	根室市	・ユルリ島道 自然環境保全 地域 ・ユルリ・モ ユルリ鳥獣保 護区（繁） ・天然記念物 （道） 「ユルリ・モ ユルリ島海鳥 繁殖地」
		湿原	高層湿原	ユルリ島	4	1	2		
		海獣繁殖地	ゼニガタアザラシ	ユルリ島、モユルリ島	2	2	2		
		海鳥類大規 模繁殖地	チシマウガラス、ウミ ウ、 ケイマフリ、エトピリ カ、 ウトウ等	同 上	2	1	1		
		猛禽類繁殖 地	ハヤブサ	モユル島	4	2	2		
		中規模海蝕 崖	—	ユルリ島、モユルリ島	3	3	2		
48	養老牛周 辺	全国的レベ ルで重要な 生物とその 環境	シマフクロウ	養老牛周辺	2	1	1	中標津町	
		森林性鳥類 繁殖地	—	同 上	4	3	3		

[V] 道北圏域

日本海とオホーツク海に接するわが国の最北端に位置する本圏域（1,327,627ha 全道比16.9%）は、寒冷な気候により特徴づけられる。

沿岸部に発達した泥炭湿原の外は、総じて丘陵性山岳によって占められているが、標高は1,000メートル程度以下に過ぎない。森林の状態は他の圏域にくらべ最も貧弱な地域で、一部の内陸地域とサロベツ原野の海岸等にまとまりのあるすぐれた森林が散見される程度である。

このほか、海跡湖がオホーツク海沿岸から宗谷海峡にかけての海岸部に、また、河跡湖が天塩川沿いに比較的多く残存している。

利尻、礼文、天売、焼尻の各離島は、すぐれた自然環境を有する地域であり、特に天売島は全国的に最大規模の海鳥繁殖地として知られている。

保全地域は、道自然環境保全地域が1か所（松山ピヤシリ、1,882ha）指定されている。

自然公園は、国立公園が1か所、道立自然公園が4か所（うち1か所は道東圏域にまたがる）指定されており、その面積は43,438haである。また、環境緑地保護地区等は15か所、1,062haとなっている。

以上の合計面積は、46,382haで、圏域比3.5%は全道比11.4%に遠く及ばず、5圏域中最小となっている。

鳥獣保護区は44か所、65,472haで、圏域比4.9%は全道比4.5%をやや上回っている。

すぐれた自然の要素としては、＜植物＞では、「すぐれた湿原」、「すぐれた海岸植生」がみられ、＜動物＞では、クッチャロ湖等の水鳥類大規模飛来地がある。

＜地形・地質＞では、「すぐれた砂丘・砂浜」や天然湖沼が多い。



表-12 「すぐれた自然地域」一覧表（道北圏域）

No	すぐれた自然地域	すぐれた自然の要素		主要な位置	保全水準			市町村名	備考
		要素	内容		資	保	利		
1	イソサヌプリ	高山植生	高山低木群落等	イソサヌプリ山	4	1	2	幌延町 浜頓別町	
		特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生、アカエゾマツ群落	同 上	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
2	岩尾内湖周辺	天然林	下部針広混交林等	岩尾内湖周辺	4	3	3	朝日町	・朝日鳥獣保護区(森)
		森林性鳥類繁殖地	—	同 上	4	3	3		
		すぐれた人工湖	—	岩尾内湖	4	4	4		
3	霧立峠	天然林	下部針広混交林、エゾイタヤシナノキ群落等	霧立峠周辺	4	3	3	幌加内町 苫前町	
		良好な展望地	—	霧立峠	4	3	4		
4	クッチャロ湖周辺	すぐれた湿原	ヨシ群落、ハンノキ・ヨシ群落、アカエゾマツ・ヨシ群落等	クッチャロ湖周辺	3	1	2	浜頓別町	・北オホーツク道立自然公園 ・浜頓別クッチ

		すぐれた海岸植生	海岸草原、ハマナス群落ほか原生花園	ベニヤ原生花園、エサヌカ	3	2	2		ヤロ湖鳥獣保護区(渡)
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	クッチャロ湖	2	2	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	同 上	4	3	2		
		すぐれた天然湖沼	—	クッチャロ湖、ボン沼	3	3	3		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	浜猿払～斜内海岸	3	3	3		
5	猿払川湿原	すぐれた天然林	ハルニレ、ハンノキ、アカエゾマツ林等	猿払川流域	3	2	3	猿払村	
		すぐれた湿原	低～高層湿原、ミカツキグサ、ヌマガヤ等	同 上	3	1	1		
		イトウのすむ川	—	同 上	3	2	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行	同 上	4	3	3		
6	サロベツ原野	日本を代表する湿原	低～高層湿原、ミズゴケ群落、ミカツキグサ群落、ソルコケモモーホロムイヌゲ群落等	サロベツ原野	2	1	1	稚内市豊富町幌延町	<ul style="list-style-type: none"> ・利尻礼文サロベツ国立公園 ・夕来稚内鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道)「稚内海岸砂丘林」
		特異な海岸植生	稚内砂丘林	稚内砂丘林	2	1	1		
		すぐれた海岸植生	トドマツミズナラ林、海岸草原、ハマナス群落等	抜海～稚内海岸一帯	3	1	2		
		水鳥類大規模飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	ペンケ沼、カブト沼	2	2	2		
		全国的レベルで重要な生物とその環境	コモチカナヘビ、ミコアイサ繁殖地	サロベツ原野	2	1	1		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ、オジロワシ	稚内海岸砂丘林	2	1	1		
6	サロベツ原野	イトウのすむ川	—	サロベツ川	3	2	2	稚内市豊富町幌延町	<ul style="list-style-type: none"> ・利尻礼文サロベツ国立公園 ・夕来稚内鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道)「稚内海岸砂丘林」
		ヒブナのいる湖沼	—	ペンケ沼、パンケ沼、カブト沼	3	2	2		
		日本を代表する特異な地形・景観	砂丘堤列及び湖沼群	稚内海岸砂丘	2	1	1		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	抜海～稚内海岸	3	2	2		
		特異な地形・景観	自由蛇行河川	サロベツ川	3	2	2		
		良好な天然湖沼	—	パンケ沼、パンケ沼、カブト沼	4	3	2		
		良好な展望地	—	サロベツ原野	4	3	3		
7	斜内山道	天然林	カシワ林	豊 牛	4	2	3	浜頓別町枝幸町	<ul style="list-style-type: none"> ・北オホーツク道立自然公園
		海岸植生	海岸断崖植生、イワヨモギ、イワデンダ、コケモモ、イソツツジ等	神 威 岬	4	2	2		
		特殊鳥類飛来地	オジロワシ、オオワシ	斜内山周辺	4	3	2		
		海蝕崖	—	斜内山道	4	3	3		
		特異な地形・景観	日高造山運動の北端	神 威 岬	4	3	3		
		良好な展望地	—	同 上	4	3	4		

8	朱鞠内湖 周辺	すぐれた天然林	下部針広混交林等	朱鞠内湖、宇津内湖周辺	3	2	3	幌加内町 羽幌町	・朱鞠内道立自然公園 ・北大雨竜地方演習林母子里地区 ・鳥獣保護区(森)
		高山植生	高山低木群落	ピッシリ山周辺	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	朱鞠内湖、宇津内湖周辺	3	3	2		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	朱鞠内湖、宇津内湖	4	3	2		
		すぐれた人工湖	—	同上	4	4	4		
		特異な地形・景観	甌穴	ウツナイ川	4	3	3		
9	知駒岳 周辺	特異な基岩に基づく植生	アカエゾマツ群落、テシオコザクラ、テシオソウ等	ヌポロマポロ川・ヌブカナナイ川上流	3	1	1	中頓別町 幌延町	・知駒鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマゲラ	知駒岳	3	3	2		
		良好な展望地	—	同上	4	3	3		
10	宗谷岬 周辺	海岸植生	海岸断崖植生等	宗谷岬海岸	4	2	2	稚内市	
		海獣回遊地	トド、アザラシ、オットセイ	宗谷岬周辺	4	3	2		
		日本を代表する寒冷地形	典型的な氷河周辺地形	宗谷丘陵	2	3	2		
		全道を代表する展望地	—	宗谷岬	3	3	4		
11	知恵文沼	ヒブナのいる湖沼	—	知恵文沼	3	2	2	名寄市	
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	同上	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	知恵文沼	4	3	3		
12	天売島・ 焼尻島	分布上重要な植物生育地	オンコ林を含む天然林	焼尻島	2	1	1	羽幌町	・天売焼尻道立自然公園 ・天売島鳥獣保護区(繁) ・焼尻島鳥獣保護区(森) ・天然記念物(国) 「天売島海鳥繁殖地」 「焼尻の自然林」
		海岸植生	ハマナス群落等	天売島西海岸、焼尻島白浜	4	2	2		
		海鳥類大規模繁殖地	ウトウ、ケイマフリ、ウミガラス、ウミウ等	天売島西海岸	2	1	1		
		中規模海蝕崖	—	天売島、焼尻島	3	3	3		
		全道を代表する展望地	—	天売島千鳥ヶ浦	3	3	3		
13	天塩川河 跡湖群	水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類等	誉河跡湖	4	3	2	中川町	
		良好な天然湖沼	—	同上	4	3	3		
14	天塩川下 流域	天然林	アカエゾマツ林	天塩川河口付近	4	2	3	天塩町 幌延町	
		海岸植生	カシワ林等	同上	4	2	2		
		自然草原	ハマナス群落、ハマニンニク・コウボウムギ群落等	天塩川下流	4	2	2		
		特殊鳥類繁殖地	オジロワシ	天塩川河口	2	1	1		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ類等	天塩川河口付近	4	3	2		
		海獣回遊地	アザラシ	同上	4	3	2		
		すぐれた砂丘・砂浜	—	遠別～浜里海岸	3	3	3		
15	天狗山周 辺	天然林	エゾイタヤ・シナノキ群落、下部針広混交林等	天狗山周辺	4	3	3	小平町	・達布鳥獣保護区(森)

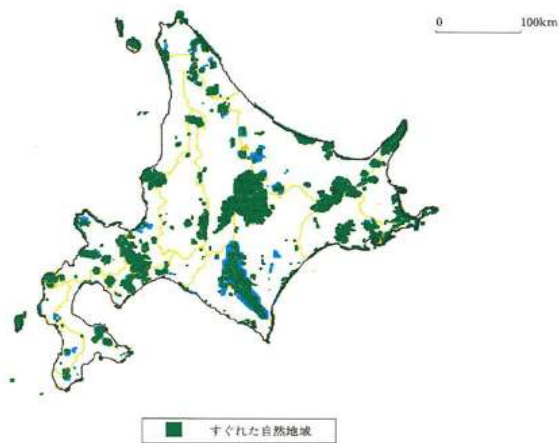
		特異な地形・景観	滝	天狗滝	4	3	3		
16	函岳周辺	天然林	エゾイタヤーシナノキ群落等	尾根棟山、坊主山、函岳	4	3	3	歌登町 音威子府村 美深町	
		高山植生	高山低木群落	同上	4	1	2		
		森林性鳥類繁殖地	—	同上	4	3	3		
		地域を代表する山岳	—	尾根棟山(1029m)、 函岳(1129m)	4	3	4		
17	パンケ山・ペンケ山	特異な基岩に基づく植生	蛇紋岩植生	パンケ山、ペンケ山	4	1	2	中川町 中頓別町	・北大中川地方 演習林 鳥獣保護区(大)
		地域を代表する山岳	—	パンケ山(632m)、 ペンケ山(716m)	4	3	4		
18	美深峠周辺	天然林	エゾマツ林、トドマツ林等	上幌内、仁宇布	4	3	3	美深町 雄武町	
		高山植生	高山低木群落	黒岩山、シアツシリ山	4	1	2		
19	北大天塩・中川演習林	すぐれた天然林	トドマツ・エゾマツ群落、アカエゾマツ群落、下部針広混交林等	北大天塩・中川演習林	3	3	3	中川町 幌延町 音威子府村	・北大中川地方 演習林鳥獣保護区(森) ・北大地方演習林 間寒別鳥獣保護区(森)
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	2	2		
20	ポロヌプリ周辺	天然林	ダケカンバーササ群落等	ポロヌプリ山周辺	4	3	3	歌登町 中頓別町 浜頓別町	
		高山植生	高山低木群落等	同上	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2		
		地域を代表する山岳	—	ポロヌプリ山(838m)	4	3	4		
		特異な地形・景観	岩峰	ポロヌプリ山山頂	4	3	3		
21	ポロ沼周辺	分布上重要な植物生育地	オゼコウホネ	キモマ沼周辺	3	1	2	猿払村	・猿払ポロ沼鳥獣保護区(渡)
		湿原	低層湿原	ポロ沼・猿骨沼周辺	4	2	2		
		水鳥類主要飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類等	ポロ沼、キモマ沼、猿骨沼	3	2	2		
		良好な天然湖沼	—	ポロ沼、キモマ沼	4	3	3		
22	松音知岳・敏音知岳	天然林	アカエゾマツ群落等	松音知岳、敏音知岳周辺	4	3	3	中頓別町	
		高山植生	高山低木群落等	同上	4	1	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同上	3	3	2		
		特異な昆虫生息地	ヒメギフチョウの北限	同上	3	2	2		
		地域を代表する山岳	—	松音知岳(522m)、 敏音知岳(704m)	4	3	4		
23	松山・ピヤシリ	すぐれた高山植生	高山低木群落等	松山・ピヤシリ山頂付近	3	1	1	名寄市 美深町 雄武町 西興部村	・松山ピヤシリ道自然環境保全地域 ・松山鳥獣保護区(森) ・ピヤシリ鳥獣保護区(森)
		すぐれた湿原	高層湿原、ミカツキグサーワタミズゴケ群落、ミネハリイータカネヤバネゴケ群落等	ピヤシリ高層湿原、松山湿原	3	1	1		
		天然林	アカエゾマツ群落、ダケカンバーササ群落等	松山周辺	4	2	2		

		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
		地域を代表する山岳	—	松山 (796m)、 ピヤシリ山 (986m)	4	3	4		
24	峰岡山林	天然林	エゾマツトドマツ群落、 下部針広混交林等	峰岡	4	3	3	稚内市	
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	同 上	3	3	2		
25	メグマ沼・大沼・声間海岸	天然林	カシワ林、トドマツ林等	声 間	4	2	3	稚内市	・メグマ沼自然 景観保護地区 ・大沼自然景観 保護地区
		湿原	ヤチヤナギ、ヌマガヤ、 ツルコケモモ、ガンコウ ラン群落等	メグマ沼、大沼 周辺	4	2	2		
		特殊鳥類繁殖地	オジロワシ	メグマ沼、大沼	2	1	1		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ 類、 シギ・チドリ類等	同 上	4	3	2		
		特殊鳥類飛来地	オオワシ	メグマ沼、大沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	同 上	4	3	3		
		良好な砂丘・砂浜	—	声間海岸 (富磯～はまなす)	4	3	3		
26	モケウニ沼周辺	すぐれた天然林	アカエゾマツ林、ハンノ キ林	モケウニ沼、 カムイト沼、瓢 箆沼周辺	3	2	2	猿払村	・北オホーツク 道立自然公園 ・浅芽野王子鳥 獣保護区(森)
		すぐれた湿原	低・高層湿原、ヨシ、ツ ルコケモモ、ミズゴケク ラス等	モケウニ沼、瓢 箆沼	3	1	1		
		水鳥類飛来地	ガン・カモ・ハクチョウ 類等	モケウニ沼、 カムイト沼、瓢 箆沼	4	3	2		
		良好な天然湖沼	—	モケウニ沼、 カムイト沼、瓢 箆沼	4	3	3		
27	利尻島	日本を代表する高山植生	ハイマツコケモモ群 落、 シコタンハコベ、ミヤマ ハタサオ、シコタンソ ウ、シラゲキクバキワガ タ等	利 尻 岳	2	1	1	利尻町 東利尻町	・利尻礼文サロ ベツ国立公園 ・利尻鳥獣保護 区(森)
		分布上重要な植物生育地	リシリブシ、リシリオダ マキ、チシマザクラ、リ シリミミナグサ、リシリ ヒナゲシ等	同 上	2	1	1		
		すぐれた天然林	エゾマツトドマツ群落 等	同 上	3	2	2		
		海岸植生	海岸草原、ヒオウギアヤ メ、エゾカンゾウ、タチ ギボウシ、ナガボシロ ワレモコウ等	大磯～栄浜	4	2	2		
		特殊鳥類繁殖地	クマガラ	利尻岳	3	3	2		
		海鳥類繁殖地	カモメ類等	ポンモシリ周辺	4	3	2		
		特異な地形・景観	コニーデ式火山島	利尻島	3	3	3		
		特異な地形・景観	岩峰、湧水	利尻岳山頂付 近、 利尻岳山麓	3	3	3		
		地域を代表する山岳	—	利尻岳 (1719m)	4	3	4		
		良好な天然湖沼	—	姫沼、オタドマ リ沼	4	3	2		

		良好な展望地	—	ベシ岬	4	3	4		
28	礼文島	分布上重要な植物生育地	レブンソウ、レブンアツモリソウ等	礼文島	2	1	1	礼文町	<ul style="list-style-type: none"> ・利尻礼文サロベツ国立公園 ・礼文鳥獣保護区(森) ・天然記念物(道) 「礼文島桃岩付近一帯の野生植物」
		日本を代表する自然草原	風衝草原等	桃岩周辺	2	2	2		
		海鳥類繁殖地	カモメ類等	猫岩周辺	4	3	2		
		大規模海蝕崖	—	礼文島西海岸	2	3	2		
		良好な天然湖沼	—	久種湖	4	3	3		

すぐれた自然地域図 (1)

I 地域トータル図

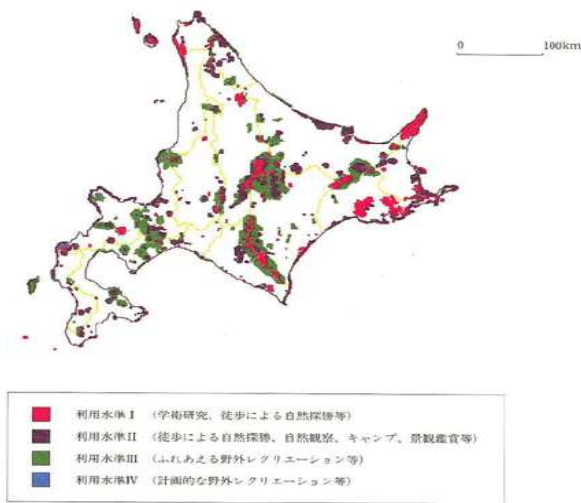


すべての要素（植物、動物、地形・地質）の保護水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する保護水準とした。

すぐれた自然地域図 (4)

II 保全水準別

<利用水準別図>



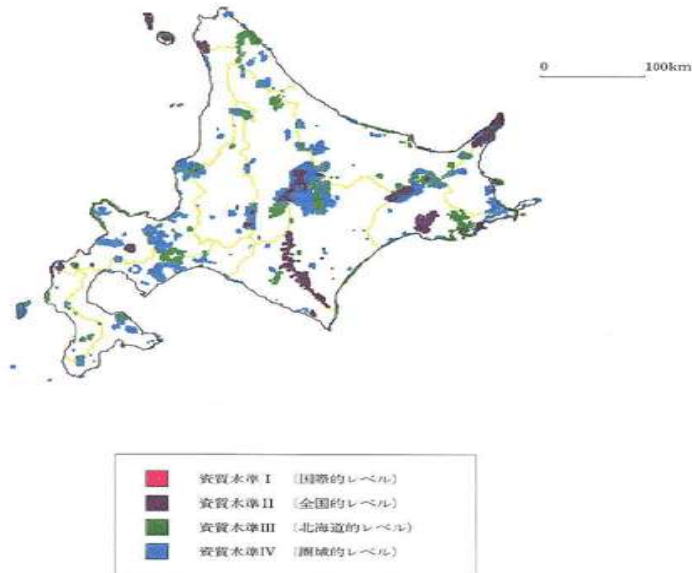
すべての要素(植物、動物、地形・地質)の利用水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する利用水準とした。

すぐれた自然地域図 (5)

III 要素別

a 植物

<資質水準別図>



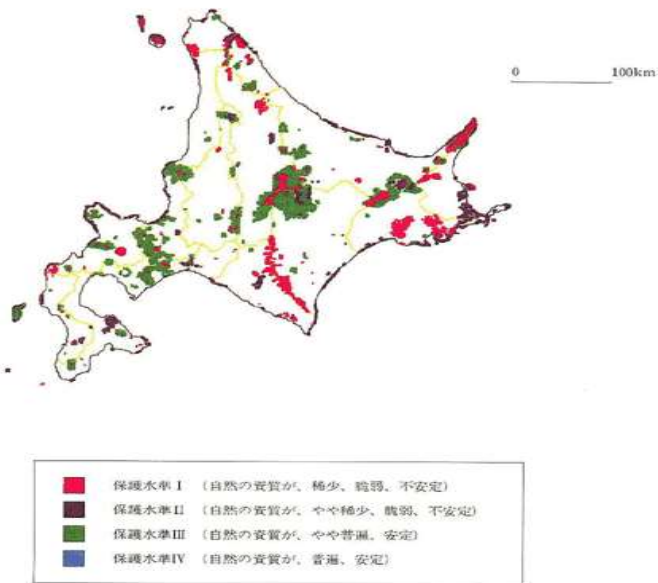
植物要素の資質水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する資質水準とした。

すぐれた自然地域図 (6)

III 要素別

a. 植物

〈保護水準別図〉



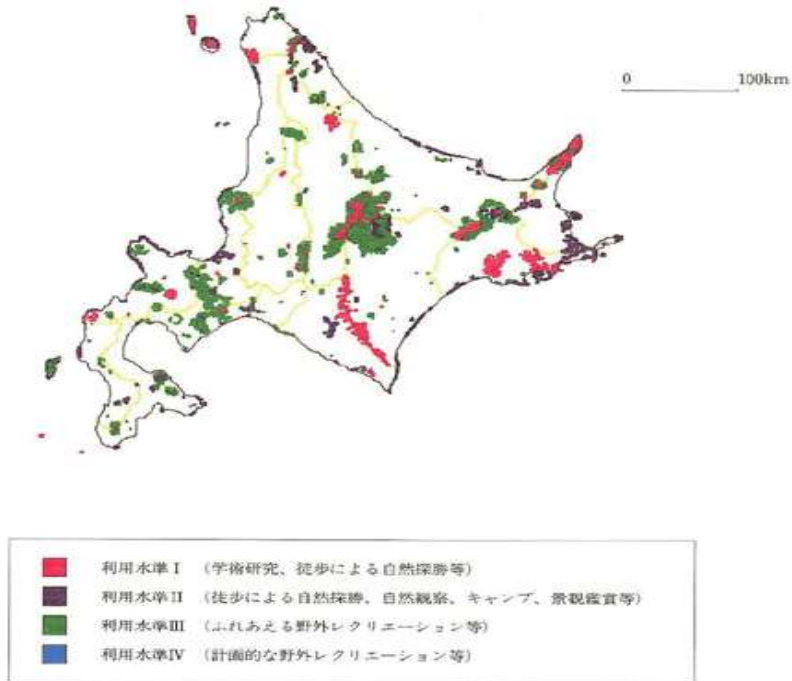
植物要素の保護水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する保護水準とした。

すぐれた自然地域図 (7)

III 要素別

a 植物

<利用水準別図>

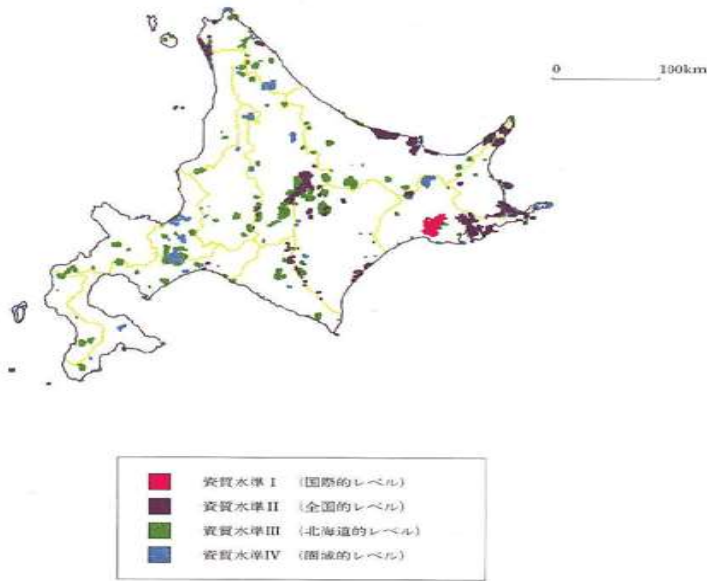


植物要素の利用水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する利用水準とした。

すぐれた自然地域図 (8)

III 要素別
b 動物

<資質水準別図>

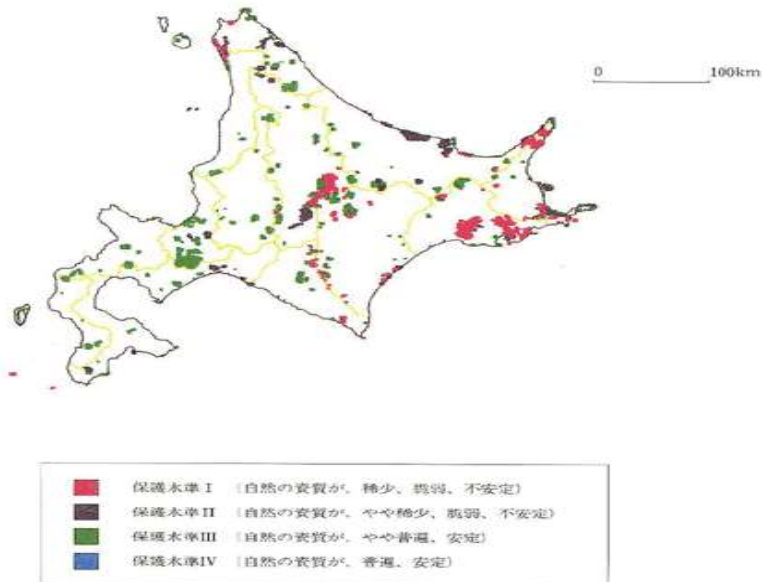


動物要素の資質水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する資質水準とした。

すぐれた自然地域図 (9)

III 要素別
b 動物

<保護水準別図>



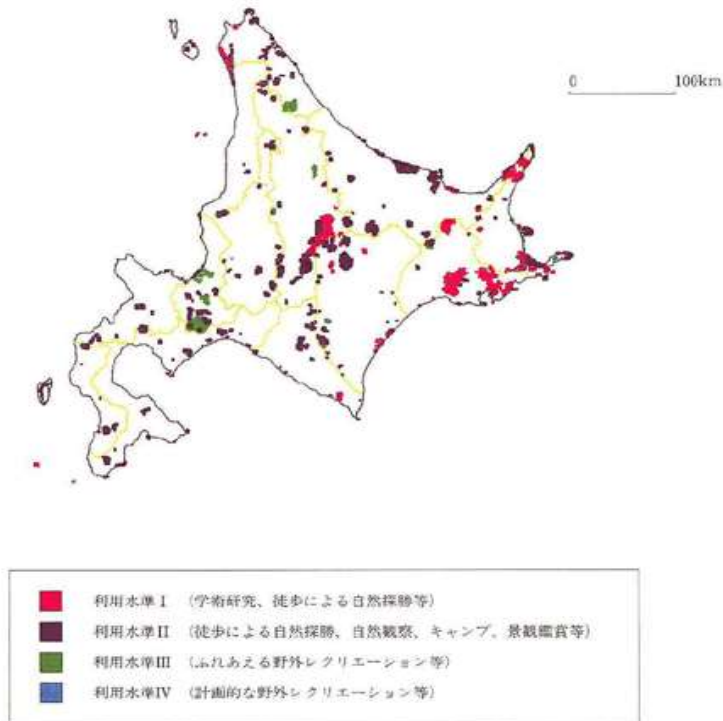
動物要素の保護水準のうち、最も高いものをメッシュを代表する保護水準とした。

すぐれた自然地域図 (10)

III 要素別

b 動物

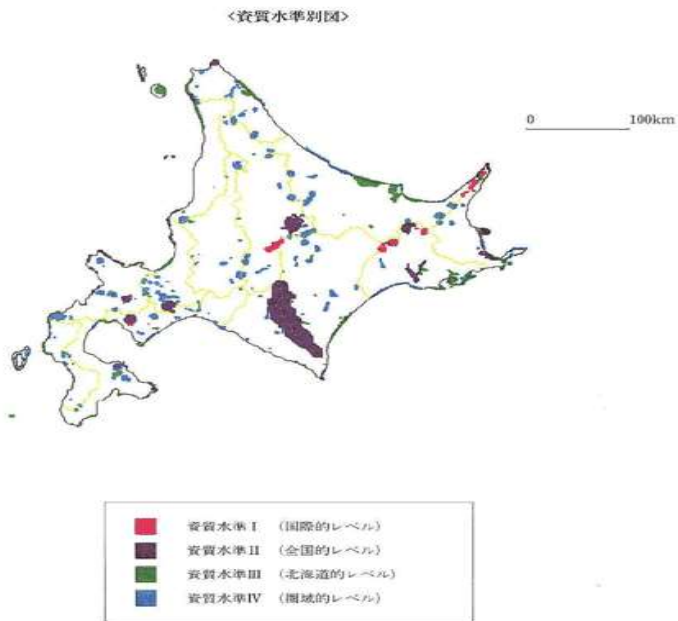
〈利用水準別図〉



動物要素の利用水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する利用水準とした。

すぐれた自然地域図 (1)

III 要素別
c 地形・地質



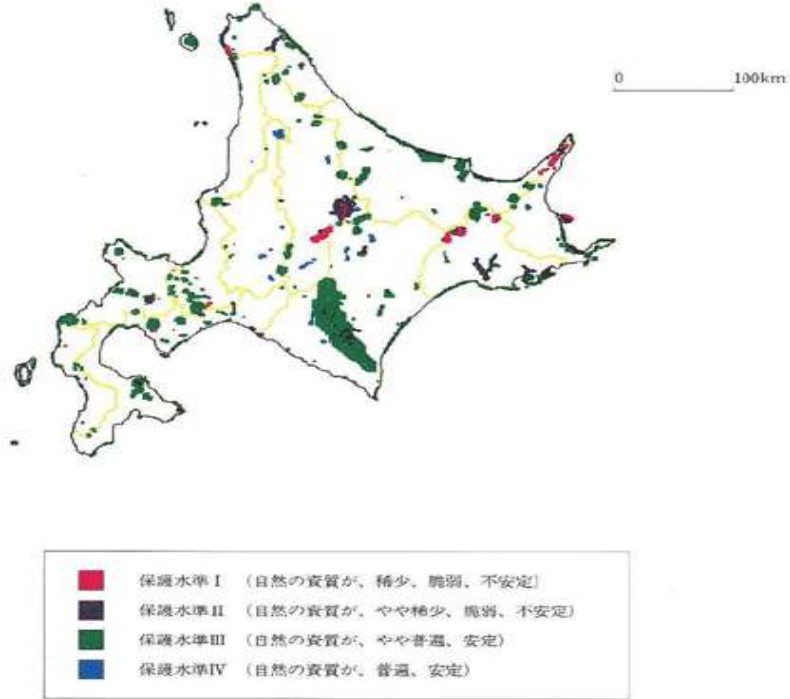
地形・地質要素の資質水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する資質水準とした。

すぐれた自然地域図 (12)

III 要素別

c. 地形・地質

<保護水準別図>



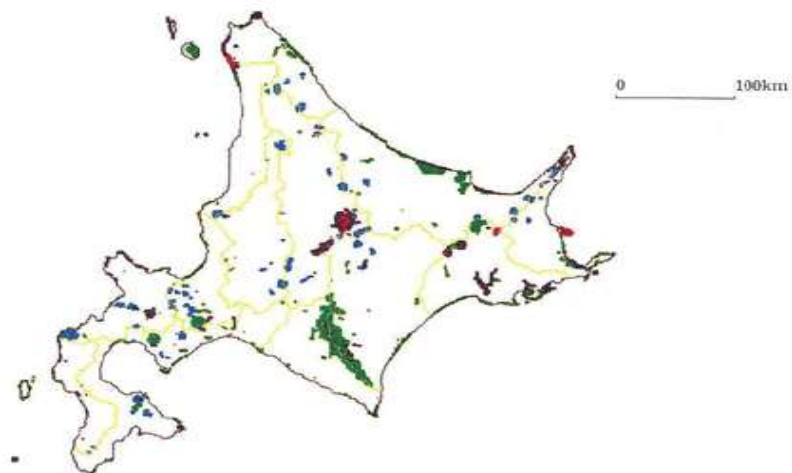
地形・地質要素の保護水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する保護水準とした。

すぐれた自然地域図 (13)

III 要素別

c. 地形・地質

<利用水準別図>



■	利用水準Ⅰ	(学術研究、徒歩による自然探勝等)
■	利用水準Ⅱ	(徒歩による自然探勝、自然観察、キャンプ、景観鑑賞等)
■	利用水準Ⅲ	(ふれあえる野外レクリエーション等)
■	利用水準Ⅳ	(計画的な野外レクリエーション等)

地形・地質要素の利用水準のうち、最も高いものを各メッシュを代表する利用水準とした。